

島津義久文書の基礎的研究

黒 嶋 敏

はじめに

戦国末期に九州をほぼ制圧し、豊臣政権、ついで徳川政権に服属した島津義久は、まれにみる活動期間の長い戦国大名である。義久は琉球との通交も掌握し続け、甥の家久が主導して一六〇九年に琉球へ攻め込むまで、島津氏のみならず豊臣・徳川政権と琉球の関係においても、きわめて重要な役割を果たした（黒嶋二〇一〇b）。島津氏は琉球渡海朱印状を発給し敵対勢力の琉球交易を牽制したが、現在判明しているかぎり、原本で伝来している琉球渡海朱印状四通は、全て島津義久発給のものである。琉球渡海朱印状の古文書的特質を検証するためには、島津義久の発給文書全体のなかでの位置づけを探るのが近道となろう。

そこで島津義久の発給文書を目録化し、若干の考察を行うのが本稿の課題である。これまでのところ、管見に入ったもので丁度八〇〇通の文書を集積するに至った。むろん個人作業ゆえの見落としや誤謬も多いと予想されるが、義久の発給文書について、書状まで含めた全体像を描いた試みはなく、現時点での判明数を提示することにも一抹の意義があるうか。まずは本稿を叩き台とすべく、あわせて大方の御指摘・御教示を仰ぐことができれば望外の幸甚である。

第1章 島津義久文書の概要

戦国から近世初頭の島津氏発給文書を数量的に検証したものに、山室恭子氏の研究がある（山室一九九二）。山室氏は、書状以外の発給文書を集積し時期的な変遷を検討した上で、島津氏の特徴として、伝来数が乏しく文書発給体制が未整備だったこと、豊臣政権服属後に発給数が増加すること、同時に印判状の発給数も増加することなどを指摘している。

ただ氏の関心は、全国の大名のなかで「非印判状大名」とされる島津氏の特徴を析出することであり、分析視角を異にする本稿では、島津義久に限定し、あらためて書状も含めた発給文書を集めた。署名・捺印などにより義久発給と推測される文書を集積したが、義久作成と思われるものでも、文書以外の詠草・懐紙・軍記奥書などは除外している。

その結果、管見に入った八〇〇通を文末の表にまとめた。表では、島津義久の発給文書をほぼ年代順に並べているが、年末詳文書は仮の編年で置いてあり、必ずしも確定した年次比定ではないことをお断りしておきたい。表に整理用の番号を付しており、以下本稿中ではこの番号を漢数字で示していく。なお宛所・差出書は、文書中の表記をそのまま反映した。

各文書の所在情報は細かく記した。ほとんどの義久文書が幕末に薩摩藩で編纂された「旧記雑録」に所収されており、そこに付記された所在情報は、その後の所蔵者を追跡する手がかりともなる。表の「鹿島旧記」欄には刊行された『鹿見鳥島史料 旧記雑録』での文書番号を、「旧記の出典」欄には「旧記雑録」の所在情報をそれぞれ示し、これに対して「現所蔵」欄には現在の文書所蔵機関を記した。所蔵者が個人の場合は省略したが、これにより、近世・近代・現代における、当該文書の伝来・移動の様子をうかがえるようになっていく。なお所在不明のものでも、薩摩藩で編纂され、影写に近い状態で筆写した「新編島津氏世録正統系図」〔新編島津氏世録支流系図〕などに採録されたものは「島津義久譜」のように括弧つきで示した。これらの所在情報により、近世薩摩藩が確認できた義久文書と、それ以外のものの判別も可能となる。

また表には文書原本だけでなく写も含めており、さらには、実際に発給された正文に対する草案・控えとして作成された案文も採録している。後述するように、発給された正文と案文とがともに伝来している事例では、書札礼がほぼ一致し、文言の推敲を経ているとはいえず、正文の忠実な案として作成されたものが多いためである。端書に発給時の事情を記した案文もあり、これらは文書作成を担った祐筆の家に伝来したもののような。たとえば「島津家文書」二十二番箱には大量の案文が含まれているが、その多くは義久の祐筆であった長谷場純辰の子孫から、近世に薩摩藩へと献上されたものであった（「黒嶋二〇一〇a」）。いうまでもなく実際の発給文書と同一とは断定できず留保が必要だが、案文であっても義久文書の特徴を探る素材となるため、正文に準じるものとして表に採録している。

さて、集積された八〇〇通という点数は、存外に少ない印象を受ける。弘治年間（一五五五〜五八）に発給をはじめてから慶長十六年（一六一

一）に死ぬまで、約半世紀に渡り活躍した義久にしては乏しいのではないか。しかも案文・正文とも伝来して重複カウントされた例を除くと、さらに通数は目減りする。弟の義弘の文書は五味克夫氏が「概略六〇〇点」「書状は約五〇〇点」と述べている（「五味二〇〇六」）ことから、義弘より上位者の義久にしては少々物足りない数である。むしろ伝来の偶然性はあるものの、戦国期以来の旧領を安堵され、多くの家中が薩摩藩士へと移行した島津氏の場合、文書散逸の歴史的条件は他地域より小さかったはずだ。文書の少なさを、山室氏のように文書発給体制が未整備であった見るべきなのだろうか、第3章であらためて考えよう。

義久文書は、山室氏の指摘するように、豊臣政権への服属を経てから、格段に増加する。天正二十年（一五九二）秋からの検地に伴う一斉発給や、朝鮮在陣中の義弘・忠恒らとの頻繁な通信など、新たな発給スタイルが出現するのだ。島津家における義久自身の位置づけが変化したこともあり、豊臣政権服属後、義久文書の出され方が大きく転換したと見てよい。このため、以下の検討では、天正十五年（一五八七）までを前期、政権服属の翌年（一五八六）以降を後期と二分して、義久文書の特徴を探ってみたい。

第2章 花押の変遷

発給文書分析には欠かせない花押の変遷であるが、すでに義久花押については重永卓爾氏の検討があり、形状をⅠからⅣの四類に区分した上で、中心的に使われたⅡ類をⅠ〜Ⅶに編年している（「重永一九九四」）。本稿でもこの分類に大きく依拠している。

ただし、重永氏は、Ⅱ類花押を編年で並べるとⅡⅠ↓ⅡⅡ↓ⅡⅠ↓ⅡⅢ↓ⅡⅡとなることから、花押改変の後、また以前の花押型に戻す「退行的現象」が見られるとするのだが、ここには問題点が二つある。第一

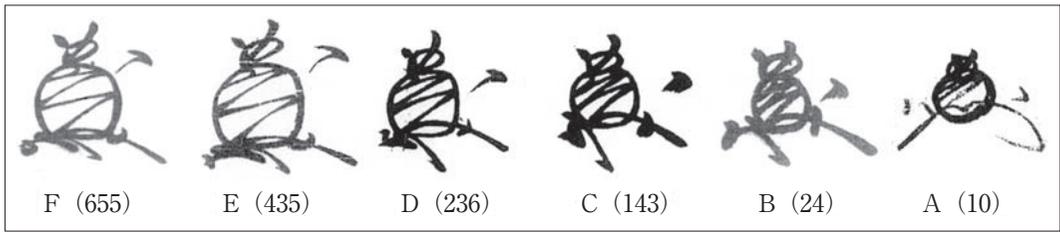


図 島津義久の花押（括弧内は表の番号、大きさ不同）

点目に、氏の分類によるⅡ1とⅡ3は、じつは同一の花押型と見なされること。第二点目として、重永氏が永禄九年（一五六六）とした、Ⅱ2型花押を使う義弘宛て書状二通の年次比定である。「働之儀」について「日取」の了解に対する六月十日付の書状（六二）と、および「三之山堺」での「勝利」を賞した六月二十一日付の書状（六三）であり、どちらも薩摩藩編纂の家譜類では永禄九年に比定するものの、これは同年十月の対伊東氏戦で義弘が負傷したとする記述に依っている。しかし管見では、二通とも永禄九年と断定できる材料はなく、むしろ島津氏と伊東氏が激突した元亀三年（一五七二）木崎原合戦前後のものと思われる。「三之山」は木崎原近在で伊東氏拠点であった小林城の別名であり、その攻防の関連史料と見られるためだ。

このように文書の年次を再検討すると、重永氏という花押の「退行」は確認できない。花押を重永氏の分類と対照させながら、年記のある文書をもとに編年で整理すると以下のようになる。

花押A（重永分類のⅠ）、義久花押初見（永禄七年頃）

花押B（重永分類のⅡ1とⅡ3）、永禄

七年冬頃〜永禄十三年頃

花押C（重永分類のⅡ2）、元亀二年頃〜天正八年秋頃

花押D（重永分類のⅡ4）、天正八年冬頃〜天正十五年頃

花押E（重永分類のⅡ5）、天正十六年頃〜慶長四年

花押F（重永分類のⅡ6）、慶長三年冬頃〜義久死去

花押G（重永分類のⅣ）慶長年間カ

花押H（重永分類のⅢ）略押カ

それぞれ表の「花押」欄に示したが、使用例が少ない花押G（二例五八三・五八四）花押H（一例三〇）は検討から外し、一般的に使用された花押A〜Fについて、図とともに形状と改変の時期を見てみよう。

当初義久が使用した花押Aは父貴久の花押型を模倣したもので、「久」の字を中心に構成されている。なお義久文書の初見とした表の一は、花押両脇にある点を確認できず、花押Aの初期型と見られる。花押Aを詳しく検証すると、さらなる編年が可能となるかもしれない。

続いて使用される花押Bは、花押Aの中央部を残しつつ、「義」の字を意識的に組み込んでいる。改変の理由は永禄七年十一月の修理大夫補任と推測され、以後の花押型も花押Bの左下部分をマイナーチェンジして使い続けることから、義久にとって島津家当主たる自身を象徴した、基本型となる花押だったのだろう。花押Bで外に開いていた左下部分が、花押Cでは内側を向くようになり、これは元亀二年六月の父貴久死去による改変であったか。さらに花押Dになると左下部分がカギのように変化する。天正八年の秋から冬にかけて改変しているが、理由は判然とせず、新たに中央の武家政権として成立した織田信長との接触が始まる時期であることや、一方で、領国が島津氏代々の守護国であった薩摩・大隅・日向を越えて拡大する転機であることが関係しているのかもしれない。

改変時期を絞り込みやすかった前期に比べ、後期は改変の度合いが緩

慢になり、見極めが難しくなる。豊臣政権服属の翌年、天正十六年ごろから、花押Dの左下部分が徐々に簡略化され、花押Eへと緩やかに移行する。これは同年夏に上洛した弟義弘が政権から表向きの方主とされ、

義久が出家号「龍伯」を名乗り始めることと関連しよう。さらに花押Fになると、全体的に下部が水平に近くなり、丸みを帯びていく。義久後継となる甥忠恒が、朝鮮から帰国した慶長三年末に少将に補任され、関が原合戦以後には徳川家康から偏諱を受けて家久と名乗るなど、島津氏家督の地位を固めつつあったことが花押変化の原因と推測される。隠居した義久のものといえる花押Eであるが、EとFの形状は非常に類似しており、判断に迷うものが多い。忠恒帰国後のものでも花押Eの使用例があり、あるいは一度忠恒に譲った家督を義久が悔い返したこと（「松尾一九八九」）と関係しているのだろうか。また後述する料紙の問題も影響して、花押EとFの差異は曖昧である。表での区分は、あくまでも主観的なものであり、花押型による年次の絞り込みも困難なため、年次比定に幅のある花押E・F文書は「年未詳」として表の最後にまとめている。

このように花押の使い方も、編年がある程度明確になる前期と、変化が鈍重になる後期とでは、大きく異なっている。花押による年次比定は、とくに前期の文書に有効性を持つといえるだろう。そこで、次に掲げる同日付の島津義久起請文を例に検討してみよう。

史料1 島津義久起請文（二七、「島津家文書」）

起請文

一、当家一流射御之趣、令相伝之処、他言有間敷事、

若偽あらは、

上梵天帝釈四大天王、下堅牢地神、惣日本国中小神祇冥道、別而當

処諸神等之可蒙御罰者也、

永禄九年丙寅

八月六日

川上十郎左衛門尉殿

義久（花押B）

史料2 島津義久起請文（七八、「川上文書」）

上梵天帝釈四大天王、下堅牢地神、惣日本国中小神祇冥道、別当国鎮守新田八幡大菩薩、天満大自在天神、殊者当処誼方上下大明神并諸神等之可蒙御罰者也、

永禄九年丙寅

八月六日

河上十郎左衛門尉殿

義久（花押C）

それぞれ問題もなさそうだが、ともに原本でありながら花押型が異なる。永禄九年頃に使われる花押型と一致する史料1が同時代文書として整合性を持つが、では史料2はどのように考えるべきか。

宛所の川上経久は島津氏一族で、犬追物の故実を担当する家であった。島津氏では代始めに犬追物を興行するならわしがあり、義久も永禄九年の家督相続に際し伝授を受け、起請文を提出したのである。そして義久と経久の間には、天正二年（一五七四）にも起請文を取り交わした痕跡がある（七七）。翌年春、義久の家督相続を祝う琉球使節来訪と合わせ代始めの犬追物が興行される（「大日本古記録 上井覚兼日記」天正三年三月〜四月条）ことから、天正二年にも再度義久は伝授を受けたのであろう。その際、永禄九年付の起請文が再度作成されて経久に渡された（史料2）、もとの起請文は島津家に返された（史料1）のではないか。そうだとすれば、史料2に天正二年頃の義久が使う花押Cが据えられた点に説明がつく。さらには起請文の内容も、永禄九年時と天正二年時の義久の立場の相違を反映したものとしてみることができそうだ。

彦山宝印を翻して薩摩国一宮である新田社や守護所である鹿児島島の鎮守である諏訪社を明記した史料2は、起請文として一般的な那智滝宝印を翻し「当処」の神を記すのみの史料1と比べ、より鳥津本宗家当主としての立場を強調したものと評価することができる。永禄九年段階では父貴久の後継者にすぎなかった義久が、貴久亡きあと、天正二年には独り立ちをして、守護としての自覚を前面に打ち出したものといえよう。

なお史料1・2から、年記のある文書でも後付けで日付を遡って作成される事例があることが明らかとなった。ほかにも表では、四四・九五・一九七は年記と花押型が合致せず、後日の発給と見る余地を残しており、とくに寺院への領地宛行である四四・九五は、豊臣政権下で没収された寺領を慶長年間に再配分した際のものである可能性が高い。また文書ではないが、義久の筆写した「在轡集」という馬術の故実書が、尚古集成館に四種伝来しており（「松尾一九八七」）、うち二本には「天正参年三月六日」の奥書を持ちながら、据えられているのは花押E・Fである。記された日付は義久の代始め犬追物の直前であり、犬追物への意識を探る興味深い素材となるが、さしあたり、後日の筆写であっても、もとの年次のまま花押を据える事例があることを指摘しておくに止めよう。

義久は、自身の立場が変わるタイミングで花押も少しずつ改め、過去の日付であっても昔の花押を使わなかった。晩年、病に苦しんだ義久が花押を書けず、印判の代用を詫びたものもある（七九三）。義久は、花押に強い思いを込めていた戦国大名といえるだろう。

第3章 料紙の使い分け

次に料紙の考察に入る。都合により今回は、法量など料紙の外見的特徴にとどめ、紙質の調査は断念せざるをえなかった。法量は東京大学史料編纂所発行『鳥津家文書目録 改訂版』（二〇〇二年）などの目録

類を参照したが、ほかに、影写本からおおまかな数値を推定したものである。得られた所見と数値から、表の「料紙」欄に、縦紙・横切紙などに分類して記した。料紙形状に着目した理由は、義久文書の書札礼の一要因となるためである。全般的に鳥津氏の関連文書では、縦二〇センチ前後の小ぶりの縦紙を使うことが多い。地域性によるものかもしれないが、それゆえに縦三〇センチ前後の縦紙は際立って大きな印象を与える。このため表の「料紙」欄には、縦紙のうち縦二七センチ（約九寸）以上のものを「縦紙大」として注記した。なお縦一八センチ（約六寸）に満たないものは横切紙とした。

法量不明の写真や近世の写でしか伝わらないものを除くと、確認できたのは全体の六割程度だが、それでも縦紙大の使われ方に特徴を見出すことができる。とくに前期では、次の①～⑤に縦紙大が使われている。

- ① 願文・起請文（相手が提出した起請文への返礼も含む）
- ② 歳末・年始など儀礼的な賀状・礼状
- ③ 書札礼で厚遇するべき宛所
- ④ 書下（判物）・感状・服属の証文
- ⑤ 琉球関係文書（外交文書、渡海朱印状）

神仏への誓約に関係する①や、領地宛行など主従関係の根幹となる④からは、受給者側が公験として長年保管しておくような公式な文書に縦紙大が用いられていることが分かる。相良忠房宛の文書で見ると、縦紙で出されている通常の書状（二八一など）に対して、起請文（一九八）や感状（二七六）、歳末の賀状（二二五）には縦紙大が使われており、これが②に該当する。義久は宛所との序列だけでなく、文書の内容・性質によって料紙を使い分け、書札礼を調整していたのだ。

書札礼の厳格さは、義久から鳥津庶家への待遇を示した次の史料からも確認できる。

史料3 島津義久書状案(五七、「島津家文書」)

「御返札二八」

寔改年、豊州・北郷殿・新納殿・典厩・金吾、皆御之字ハ一ツ、薩州計御二、

改年之御吉兆千喜萬悦重畳雖申事旧候、猶更不可有休期、多幸々々、抑為此等之御祝儀五明貳本令進之候、倍永日中諸慶可申加候、恐々謹言、

正月十一日

修理大夫義久

謹上 薩摩守殿

戦国期に義久を支えた島津庶家は書札礼でも厚遇されるが、もともと高い格式にあったのは島津薩州家で、賀状のような儀礼文書では特別に配慮されるのである。その薩州家宛ての史料3は、案文ではあるが縦紙大を使っており、実際に発給された正文も縦紙大であった可能性が高い。それは案文・正文がともに伝来した例(一六三・一六四、三四〇・三四一、三六三・三六四など)からの推測である。いずれも正文に対応した料紙を案文でも使うだけでなく、年記の方法、宛所を記す位置なども正文と案文で一致しているのである。文書作成に際しては、案文であっても実際に発給する正文と同等の料紙を使った可能性が高い。ここからも、島津家文書伝来の案文が、正文に準じた史料価値を持つことが明らかとなる。

書札礼は社会秩序における序列表現であり、新たな武家政権に服属してからは、その書札礼の影響を受けることになる。後期における義久文書の場合、それは折紙使用として出現した。秀吉のもとへ上洛した翌年を初見(二八一)に、以後義久は折紙文書を頻発する。前期には折紙を使っていない義久のこの変化は、いうまでもなく折紙文書を多用した豊臣政権の書札礼を踏襲したものであろう。なお、折紙・横切紙は物理的に

縦の長さが半減するため、スペース減少のしわ寄せが花押にも及ぶことになり、これが花押E・Fの判別を困難にさせる一因となる。後期の義久文書は、花押の形状のみで年次を推定する決め手とはならず、料紙形状を含めた花押分類を構築していかなければならないかもしれない。

折紙を多用する一方で義久は、なお縦紙大の文書も出し続けていた。その使われ方は前期の①⑤と同様である。後期になって減少するのは縦紙の文書であり、前期の縦紙文書が豊臣政権の影響を受けて、折紙・横切紙へと切り替えられたといえよう。たやすく置き換えられた縦紙文書が、それだけ融通無碍で使い勝手のいい料紙であったとすれば、後期になっても公的・儀礼的な性格を失わなかった縦紙大文書とは非常に対照的である。

このように、縦紙大の料紙は、義久文書の書札礼を構成する重要な要素であった。縦紙大文書を効果的に使用した前期において、義久は厳格な書札礼により当主の権威付けを図ったものと考えられる。ここに義久文書の数量的な乏しさを状況証拠として加味すれば、義久文書は非常に限定的に発給されていたのではないだろうか。たしかに広範に文書を発給する体制ではないともいえるが、それはむしろ、当主の権威化のために熾烈な権力闘争の中で育った義久にとって、自身の正統性確保は不可欠の課題だった。戦国大名として台頭する過程で当主の権威化を図り、実務的な文書は老中たちの発給に委ねていたものと考えることができよう。

さらには、後期になっても縦紙大を使い続けたところに、なお島津家当主であり続けた義久の自意識を認めることができる。同じく後期になっても、義久は琉球との通交権を終生手放さなかった。続いて、同様に縦紙大が使われた琉球宛て文書(⑤)の検討に移ろう。

第4章 琉球宛て文書の位置

史料4 島津義久琉球渡海朱印状(二二四、南さつま市坊津歴史資料)

センター輝津館寄託文書)

薩摩国坊津天神丸

船頭鳥原掃部助

琉球

天正拾二年(甲申)拾一月九日 義久(花押D)(朱印)

下

史料4は琉球渡海朱印状の代表的な事例である。原本調査の所見をもとに特徴を紹介しておく、朱印は琉球宛てに使われた三寸四方の三重郭方印で「義久」の印文を持ち、花押と朱印とが相俟って差出である義久を二重に強調している。年記は文書の天から書きはじめ、宛所である船頭は義久の「久」の字と同じ高さから、それも小さな文字で記されることから、差出・宛所間における身分秩序の大きな差異を明示している。

しかし料紙形状は堅紙大で儀礼的な側面が強く、ほぼ一字ごとに墨つぎをしており、とても丁寧に作成されている。ほかの琉球渡海朱印状原本三通(一八〇・三三〇・六三二)も史料4と同じ様式で、料紙も堅紙大と推測・確認される。様式上の特徴である料紙や書下年号・差出書のほか、花押と朱印の併用などは琉球宛て文書の書札礼(三二七)を踏襲し、とくに三寸四方の方印は琉球国王印と対応する。これらの点から、琉球渡海朱印状とは、琉球宛て文書と同じく琉球側を意識した文書であり、形式的な宛所は船頭であるが、真の宛所は琉球国王であると考えられるのである。

このように堅紙大を使用する琉球宛て文書だが、例外がある。天正二〜七年の間のみ、案文に堅紙が用いられており(七六・一〇二・一二二)、

実際に発給された正文も堅紙で作成された可能性が高いのだ。これは原則的に対等であった島津家当主・琉球国王間の書札礼に反し、琉球に対して薄礼の操作をした痕跡となる。

この天正年間、島津―琉球間の研究史では島津氏の強圧化が進むとされている。島津氏の琉球渡海朱印状を持たない船の拒絶、島津家当主の家督相続を祝う綾船の派遣など、島津氏是对立諸氏を牽制するため、琉球に対して圧力をかけていったというものだ。同時期に島津領内支配の面でも義久は「国衆に対して高圧的な態度」を取るようになり(山口一九八五)、発給文書にも書式の「ゆるやかな薄礼化」が認められるとする(「山室一九九一」)。天正二〜七年は、内外で当主義久の權威化を進めた時期であるといえるだろう。

ただし、薄礼化を島津氏の強圧化と直結させるのは問題がある。なぜなら天正九年以後、琉球宛て文書に堅紙大の料紙が復活するようになるのだ(一七四・一八〇ほか)。この時期に島津氏の強圧化に歯止めがかけられた形跡はないため、その原因は別のところに求めなければならぬだろう。

堅紙が使われる以前の琉球宛て文書を見ると、義久文書では確認できないものの、父貴久が発給した琉球宛て文書の案文は堅紙大の料紙に認められている(『大日本古文書 島津家文書』一一〇七号、『島津家文書目録 改訂版』請求記号二二五―三三)。やはり基本的に琉球宛て文書は堅紙大で出されるはずが、天正二〜七年の間のみ、例外的に堅紙が使われたらしい。

では堅紙を使う時期の、島津―琉球関係はどのような状態にあったのか。じつは永祿末年以後、島津―琉球関係は冷え込んでいた。琉球は、島津氏と対立する日向伊東氏との関係を深め、島津氏の政策に同調しなかったのである(『荒木二〇〇六、黒嶋二〇一二』)。天正三年のあや船

派遣後も関係は好転せず、島津氏が日向への影響力を強めた天正五年を過ぎて、明からの冊封使派遣を間近に控えた琉球側が下手に出ることで、ようやく融和に向かった〔深瀬二〇〇七〕。琉球の島津氏への抵抗は「先非」の状態にあり、翌天正七年に島津氏使者が派遣されるまで、表向き島津氏からの商船は「停止」されていた（天正七年三月二十七日付、島津家老中書状案『鹿兒島県史料 旧記雑録後編』一一一〇七七号）。以後、東シナ海域秩序の変動により中継貿易が不調となった琉球は、日本への経済依存を強め、島津氏の意向に従うようになる。表からも、この時期に渡海朱印状や琉球宛て文書が頻発され、しかも旧来どおりの堅紙大での発給を確認できるだろう。

一時的な堅紙使用の理由を、義久の権威化だけでなく琉球の「先非」にも求められるとすれば、義久の書札礼とは宛所との身分的な序列関係だけでなく、対立や協調といった時々の政治的な関係性も反映したものであった。料紙に着目することで、書札礼の弾力的な運用が明らかとなった事例といえるだろう。

おわりに

以上、本稿では管見に入った島津義久文書の全体像を示しながら、花押・料紙形状について時期的な変遷と特徴を指摘し、義久の琉球宛て文書に関して若干の考察を行った。とくに戦国大名として台頭する時期に、文書の観点から光を当てることができたように思う。

触れるべき論点は多岐に渡るが、筆者の分析能力と紙幅の都合から、ひとまずここで止めておく。今後、発給文書のさらなる集積と受給文書の検証、また義久と表裏一体の存在である老中や義弘の発給文書と合わせ検討することで、義久文書論が深化することを願い掲筆したい。

【おもな参考文献】

- 荒木和憲 二〇〇六年「一五・十六世紀の島津氏―琉球関係」『九州史学』一四四
- 梅本哲人 一九八五年「琉球国王書翰の検討」『地方史研究』三五―五
- 上原兼善 二〇〇九年「島津氏の琉球侵略」榕樹書林
- 鹿兒島県歴史資料センター黎明館編 二〇〇二年『奇跡の至宝「島津家文書」黒嶋 敏 二〇一〇年a「織田信長と島津義久」『日本歴史』七四―号
- 二〇一〇年b「島津侵入事件再考」小野正敏ら編『中世はどう変わったか』高志書院
- 二〇一二年「中世の権力と列島」高志書院
- 二〇一四年「島津義久〈服属〉の内実」谷口央編『関ヶ原合戦の深層』高志書院
- 五味克夫 一九七八年「島津家文書の成立に関する再考察」『西南地域史研究』二
- 二〇〇六年「島津義弘の書状」『図録 戦国武将 島津義弘』始良町歴史民俗資料館
- 重永卓爾 一九九四年「中世島津氏印判をめぐる諸問題」『大隅南・北地域学術調査報告書』
- 堂満幸子 一九九〇年「尚古集成館所蔵の日置島津家文書について」『尚古集成館紀要』四
- 徳永和喜 一九八〇年「琉球渡海朱印状の一考察」『西南地域史研究』三
- 西本誠司 一九八六年「島津義弘の本宗家家督相続について」『鹿兒島中世史研究会報』四三
- 深瀬公一郎 二〇〇七年「十六・十七世紀における琉球・南九州海域と海商」『史観』一五七
- 福島金治 一九八八年「戦国大名島津氏の領国形成」吉川弘文館
- 二〇〇六年「戦国島津氏琉球渡海印判状と船頭・廻船衆」有光友学編『戦国期印章・印判状の研究』岩田書院
- 松尾千歳 一九八七年「資料紹介 島津義久筆「在轡集」」『尚古集成館紀要』

一
一九八九年「資料紹介「鹿兒島二召置御書物並富隈へ被召上御書物覚帳」
『尚古集成館紀要』三

三木 靖 一九七二年『戦国史叢書 薩摩島津氏』人物往来社

三木 靖編 一九八六年『島津義弘のすべて』新人物往来社

村井章介 一九九五年『東アジア往還』朝日新聞社

山口研一 一九八五年「織豊期島津氏の権力構造」『史友』一一

一九八六年「戦国期島津氏の家督相続と老中制」『青山学院大学文学部紀

要』二八

山室恭子 一九九一年「中世のなかに生まれた近世」吉川弘文館

山本博文 一九九〇年「幕藩制の成立と近世の国制」校倉書房

一九九七年「島津義弘の賭け」読売新聞社

二〇〇三年「島津家文書の内部構造の研究」『東京大学史料編纂所研究紀

要』一三

米澤英昭 二〇〇一年「庄内の乱に見る島津家内部における島津義久の立

場」『都城地域史研究』七

【付記】

本稿は筆者が研究代表者となった二〇一一年度～二〇一三年度科学研
究費補助金若手研究（B）「権力と海洋―十六～十七世紀の船舶管理―」
による研究成果の一部である。史料調査では、琉球渡海朱印状の原本を
所蔵・保管しておられる南さつま市坊津歴史資料センター輝津館・尚古
集成館・霧島市立国分郷土館をはじめ、関係諸機関および御担当者各位
に大変お世話になった。記してここに感謝申し上げたい。

また本稿は、二〇一三年七月一五日に鹿兒島市黎明館において開催さ
れた鹿兒島地域史研究会での口頭報告「島津義久文書の基礎的研究」を
もとにしている。当日は五味克夫氏をはじめとする参加者各位から貴重
な御意見・御教示をいただき、本稿作成に際して大きな助けとなった。
あわせて厚く御礼申し上げます。

表 島津義久発給文書目録

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿田旧記	旧記の出典	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
1		5	18	書状	榊山芸州	義久	堅紙	A初期	後1-79	榊山善三郎	史料榊山	島84-10-6	榊山助太郎討死(弘治三カ)。
2	永禄2	9	28	連起請文	肝付彈正忠	義久		(A)	後1-138	肝付半兵衛兼屋	(島津貴久譜)	島35-1-3	貴久連署。神文省略。旧記家2-663p 肝付系譜雜録卷三。
3	永禄2	10	4	連起請文	額姓山城守	義久		(A)	後1-139	額姓右京	(島津貴久譜)	島35-1-3	貴久連署。
4		3	4	書状	又六郎	義久		A	附1-893	左衛門督義久譜	松原神社文書	島6171.97-30	家9松原6。
5		6	14	書状案	額姓山城守	義久		ナシ	附2-34				額姓兼親の出家前カ。
6	永禄5	4	29	起請文	額姓山城入道	義久		(A)	後1-208	額姓右京	(島津義久譜)	島35-1-4	
7	永禄5	6	16	感状写	喜入式部大輔	義久		(A)	後1-225	当家	(喜入季久譜)	島42-2-7	
8	永禄5	10	2	起請文	相良	義久	堅紙	A			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-16	相良506。
9	(永禄5)	10	2	書状	相良	義久	堅紙	A			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-16	相良507。
10		10	3	書状	又六郎	義久	堅紙	A	附1-896	左衛門督義久譜	史料入来院	入来院家文書0671-18-3	礼紙書241×41.0。
11		10	2	書状	北郷左衛門尉	義久		(A)	後1-457	北郷時久譜	都城島津家文書	都城島津家文書6171.96.15-4-30	家2-305、家6北郷16。
12		11	16	書状写	肝付彈正忠	義久		(A)	後1-264	肝付伴兵衛兼屋	(島津義久譜)	島35-1-4	家2-613。
13		12	23	書状写	三原遠江守	義久		(A)	後1-241	三原遠江	(島津義久譜)	島35-1-4	
14	(永禄6)	12	9	書状	又六郎	義久		(A)	後1-265	左衛門督義久譜	松原神社文書	島6171.97-30	家9松原11。
15		2	25	書状	又六郎	義久		A	附1-894	左衛門督義久譜	松原神社文書	島6171.97-30	家9松原9。
16		8	4	書状	又六郎	義久		A	附1-895	左衛門督義久譜	松原神社文書	島6171.97-30	家9松原10。
17				書状	又六郎	義久		ナシ	附1-892	左衛門督義久譜	松原神社文書	島6171.97-30	家9松原2。ウハ書のみ。
18		1	11	吉書		義久		A	家3-219	在家蔵	高古集成館	町田文書6171.97-43-38	上部焼損。
19		2	2	書状	佐多又太郎	義久		(A)	後2-257		(佐多氏譜)	島94-33	
20	永禄7	4	11	書状案	戸次親方	義久		ナシ	後1-291	案文在本田助之丞	(島津義久譜)	島35-1-4	義久カ。
21		7	26	書状	左衛門大輔	義久		ナシ	後1-299	左衛門督義久譜	松原神社文書	松原神社文書6171.97-30	家9松原12。日付、ウハ書のみ。
22		9		書状案	(大友)	義久		ナシ	後1-303	案文在本田助之丞			上書「大友殿へ御書案文、永禄七、九月」。
23	永禄7	11	19	起請文	北郷左衛門尉	義久		(B)	後1-305	北郷家	都城島津家文書	都城島津家文書6171.96.15-4-27	家6北郷14。
24	(永禄8)	1	14	書状	大野鯨河守	修理大夫義久	堅紙	B	後1-310	国分兼有馬清左衛門	史料島津	島3-12-8	大古1417は永禄8年とする。謹上書。
25		2	18	書状	兵庫頭	義久			附2-27				貴久出家前カ。
26	永禄8	8	24	書下写	又四郎	修理大夫義久			後1-319	垂水昌主			家11末川譜11。花押あり。一部字句相違あり。
27	永禄9	8	6	起請文	川上十郎左衛門尉	義久	堅紙	B	後1-339		史料島津	島3-12-9	那智滝室印、大古1418。
28		11	8	書状写	可楽	義久		(B)	後1-349	岩切二右衛門信秀	(島津義久譜)	島35-1-4	
29	永禄10	7	13	起請文	榊山芸芸入道	義久	堅紙	B	後1-374	榊山善三郎	史料榊山	島84-10-12	彦山宝印。
30		7	29	書状	兵庫頭	義久	堅紙	H	後1-375	四八番箱	史料島津	島19-1-10	略押か。
31	永禄10	10	3	書下写	一乘院頼忠	修理大夫義久	堅紙	(B)	後1-377	一乘院	(島津義久譜)	島35-1-4	
32	永禄11	2	吉書	下	藤島	修理大夫義久	堅紙	B	後1-423	花林寺	藤島神宮文書	藤島神宮文書3071.97-13	影写本による縦26.7。
33	永禄11	2	吉書	下	藤島	修理大夫義久	堅紙	B	後1-424	花林寺	藤島神宮文書	藤島神宮文書3071.97-13	影写本による縦13.3。
34		2	16	書状案	玄佐	義久			後1-425				
35	永禄11	4		書立		義久		B	家11末川3		末川家文書		「都城文化財調査報告書21集」。
36	永禄11	6	15	起請文	北郷左衛門入道	義久		(B)	後1-444	北郷家	都城島津家文書	都城島津家文書6171.96.15-4-29	家6北郷15。
37		1	20	書状	左衛門大夫	義久		B	附1-899	左衛門督義久譜	松原神社	松原神社文書6171.97-30	家9松原17。
38		1	11	書状	左衛門佐	義久		B	附1-903	左衛門督義久譜	松原神社	松原神社文書6171.97-30	家9松原22。
39		2	8	書状	左衛門佐	義久		B	附1-900	左衛門督義久譜	松原神社	松原神社文書6171.97-30	家9松原20では永禄8年と比定する。
40	永禄12	4	14	書下	喜入式部大輔	義久		(B)	後1-492	喜入家	(喜入季久譜)	島42-2-7	
41		7	16	書状	細川兵部大輔	修理大夫義久	横切紙	B→C	後1-516	国分兼有馬清左衛門	史料島津	島3-12-11	大古1420(三番箱)。進上書。
42	永禄12	8	26	書下	妻刈鶴千代	修理大夫義久	横切紙	B→C	後1-517	妻刈	妻刈文書	妻刈文書6171.97.53-2-20	
43	永禄12	10	9	書下写	肝付彈正忠	修理大夫義久	横切紙	(B→C)	後1-521	肝付	(島津義久譜)	島35-1-4	
44	永禄12	11	13	書下写	妙谷寺	修理大夫義久	横切紙	F	後1-522	妙谷寺	(島津義久譜)	島35-1-4	花押型とズレあり。
45	永禄12	11	13	書下写	笑岳寺	(補判)	横切紙	(B→C)	後1-523	笑岳寺	(島津義久譜)	島35-1-4	伊集院孤庵書下写。
46	永禄12	11	15	書下	藤島社	修理大夫義久	堅紙	B	後1-525	花林寺	藤島神宮文書	藤島神宮文書3071.97-13	影写本による縦30.3。
47	永禄13	1	11	書下写	広濟寺雪岑	修理大夫義久	横切紙	(B→C)	後1-538	泰平寺	(島津義久譜)	島35-1-4	町田氏正統系譜九では広濟寺蔵。
48	永禄13	1	11	書下写	(正宮)	修理大夫義久	横切紙	(C)	後1-539	宮内留主右衛門	(島津義久譜)	島35-1-4	
49	元亀1	1	11	書下写	家老衆中・地頭衆中	義久		ナシ			鹿児島県立図書館		「県立図書館本「榊山玄佐自記並雜」 「旧記月報」16。永禄13/4/23蔵。
50	永禄13	3	2	書状写	中山王	修理大夫義久		ナシ	後1-548		(島津義久譜)	島35-1-4	
51	永禄13	3	2	書状写	中山王	修理大夫義久		ナシ	後1-548				町田氏正統系譜九と同じ「進上」あり。
52		6	28	書状案	細川兵部大輔	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後1-561	案文	史料島津	島2-25-9	謹上書、大古1113。
53				書状案		修理大夫義久	横切紙	ナシ	附1-1067	御文庫二二番箱	史料島津	島17-11-24	
54	永禄13	7	6	起請文	相良	藤原義久	堅紙	B→C			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-16	相良549。元亀元年8/5代到来。
55	永禄13	7	7	書状	相良	義久	堅紙	B→C			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-12	相良550。元亀元年8/5代到来。
56		1	11	書状案	薩摩守	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後1-576	案文在八木主水元信			「定改年」の袖書あり、謹上書。
57		1	11	書状案	薩摩守	修理大夫義久	堅紙	ナシ	附1-999	二二番箱二	史料島津	島17-2-2	「定改年」の袖書あり、謹上書。
58		3	29	書状	左衛門大輔	義久		C	附1-901	左衛門督義久譜	松原神社	松原神社文書6171.97-30	家9松原19。島津貴久、元2/6/23没。
59	元亀2	4	7	起請文	榊山兵部大輔	義久	堅紙	C	後1-580		史料榊山	島84-13-14	神文のみ。彦山宝印。
60		5	7	書状	右馬頭	義久			家11末川譜8				封紙ウハ書カに「又三郎義久」。
61			29	書状	左衛門大輔	義久		ナシ	附1-897	左衛門督義久譜	松原神社文書	松原神社文書6171.97-30	家9松原14。島津貴久、元亀2/6/23没、日付、ウハ書のみ。
62		6	10	書状	兵庫頭	義久	堅紙	C	後1-334	正文有、四四番箱	史料島津	島19-1-7	
63		6	21	書状	兵庫頭	義久	堅紙	C	後1-335	四八番箱	史料島津	島19-1-8	
64		8	15	書状	相良遠江守	義久	堅紙	C			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-12	相良508。
65	元亀3	8	28	書状案	愛宕山長床坊	義久	堅紙	ナシ	後1-635	二二番箱二、案文加治長谷場伝左衛門	史料島津	島17-2-3	
66		8		書状案	相良	義久	堅紙	C			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良559は天正4年とする。
67		9	13	書状案	土持右馬頭入道	義久		ナシ	附2-43	土持			
68		10	11	書状	肝付彈正忠	義久		(C)	後1-342	肝付半兵衛兼屋	(島津義久譜)	島35-1-4	家2-614。
69		7	7	書状	兵庫頭	義久	堅紙	C	後1-376	四八番箱	史料島津	島19-1-11	
70		11	19	書状	兵庫頭	義久	堅紙	C	後1-458		史料島津	島19-1-12	
71		2	23	書状	左衛門督	義久		C	後1-643		松原神社文書	松原神社文書6171.97-30	家9松原23。
72	元亀4	2	26	起請文	禰寝	義久		(C)	後1-661	禰寝右近重永	(島津義久譜)	島35-1-4	禰寝氏文書(3071.97-6-4)、新納忠元文書(2071.97-6.7)。
73	(元亀4)	9		書状案	(相良)	義久	堅紙	ナシ	後1-687	二二番箱二	史料島津	島17-2-5	
74	(元亀4)	9		書状案	(志岐)	義久	堅紙	ナシ	後1-691	二二番箱二	史料島津	島17-2-7	
75	(元亀4)	9		書状案	(大友)	義久	堅紙	ナシ	後1-693	二二番箱二	史料島津	島17-2-9	義久カ。
76	天正2	4	1	印刷状案	船頭渡邊三郎五郎	義久	堅紙	ナシ	後1-735	二二番箱二	史料島津	島17-2-12	成球渡海朱印状案。
77	天正2	6	13	書状案	川上武蔵守	義久	堅紙	ナシ	後1-744	二二番箱二	史料島津	島17-2-13	
78	(天正2)			起請文	河上十郎左衛門尉	義久	堅紙	C			川上文書	川上文書0071-18	神文のみ。文書の日付は永禄9/8/6、26.1×37.2。
79	天正2	9	10	起請文	北郷左衛門入道	義久		(C)	後1-756	北郷家	都城島津家文書	都城島津家文書6171.96.15-4-32	家6北郷18。
80	天正3	3	22	書下	かは山兵部たけう殿母公	よし久	堅紙	C	後1-793	榊山	史料榊山	島84-13-4	
81	天正3	6	2	書状案	井間	義久		ナシ	後1-805	案文			
82		11	9	書状	高野山檢校増福院	修理大夫義久	堅紙	C	後4-512	三番箱	史料島津	島3-13-24	大古1478。

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿野旧記	旧記の由典	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
83	天正3	8	28	直書	(金峰山)	義久		(C)	後1-808	野成兼秋峰九郎右衛門	(島津義久譜)	島35-1-4	本文未完。
84	(天正3)	11	13	書状	左衛門督	義久		C	附1-902		松原神社文書	松原神社文書6171.97-30	年次比定は「上井兼兼日記」天正3/12/14条による。家9松原21。
85		3	25	書状	兵庫頭	義久	堅紙大	C	後1-833	四八番箱	史料島津	島19-1-13	
86				書状案	長宗我部宮内少輔			ナシ	後1-835	案文			
87	天正4	5	21	書下	頭越小四郎	義久		(C)	後1-851	頭越	(島津義久譜)	島35-1-4	家2-428新編伴氏付氏系譜19。
88	天正4	6	25	書状案	北小路大膳大夫	義久		ナシ	後1-853	加治木衆長谷場伝左衛門			
89		7	16	書状	兵庫頭	義久	堅紙大	C	後1-855	四八番箱	史料島津	島19-1-14	
90		8	12	書状	兵庫頭	義久	堅紙大	C	後1-858	四八番箱	史料島津	島19-1-15	
91	(天正4)	10	20	書状	伊勢因幡守	義久	横切紙	C			慶徳義塾大学	相良文書3071.94-4-16	相良568。四九番箱(附1-1001)に控あり。花押有。宛所ナシ。
92	(天正4)	10	20	書状		義久	横切紙	C	附1-1001		四九番箱	島51-1-20	相良568の案か。
93	(天正4)	12	19	書状	相良	義久	横切紙	C			慶徳義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良590。
94		6	3	書状	伊勢因幡守	義久	堅紙大	C	附2-2708	国分榮伊地知	史料島津	島2-26-3	
95	天正5	2	27	書下	興国寺	義久		(F)	後1-913	興国寺	(島津義久譜)		花押型とズレあり。家2-431にも興国寺文書としてあり。
96	天正5	12	5	書下	福永丹後守	義久		ナシ	後1-938	加治木福永			
97	天正5	12	5	公帖	玄竺	修理大夫義久		(C)	後1-939	大慈寺	(島津義久譜)	島35-1-4	家6大慈寺51。
98		12	21	書状	相良遠江守	義久	堅紙大				慶徳義塾大学	相良文書3071.94-4-12	相良597。
99				書状案							史料島津	島17-2-19	二番箱。
100	天正6	2	14	願文	鞍馬寺妙法坊	義久	堅紙大	C	後1-964	三番箱一	史料島津	島3-12-13	大古1422、案文加治木衆長谷場。
101	天正6	7	20	起請文	北郷左衛門入道	義久		(C)	後1-986	北郷		島6北郷22。	家6北郷22。
102	天正6	8	1	書状案	円覚寺	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後1-987	二番箱二	史料島津	島17-2-20	謹上書。
103	天正6	8	3	起請文	北郷彈正忠	義久		(C)	後1-988	北郷		島6北郷44。	
104	天正6	8	20	書状案	兵庫頭	義久	堅紙大	ナシ	後1-998	林萬五 兵衛、二番箱二	史料島津	島17-2-14	後1-753(義久譜より)にもあり。
105	天正6	8	20	書状案	左衛門督	義久	堅紙		後1-999	二番箱二	史料島津	島17-2-22	
106		10	15	書状	北郷左衛門入道	義久		(C)	家6北郷23			島6北郷22。	家6北郷22。
107		10	15	書状案	北郷左衛門入道	義久		C	後1-1007		史料島津	島51-1-14	北郷文書の案か。
108	天正6	10	26	願文	霧島山	藤原義久	堅紙大	ナシ	後1-1014	二番箱二	史料島津	島17-2-23	
109	天正6	11	4	願文	(霧島山)	藤原義久	堅紙大	C	後1-1018	花林寺		島6北郷22。	影写本による縦27.0。
110	天正6	11	4	願文	霧島山	藤原義久	堅紙大	C	後1-1019	花林寺		島6北郷22。	影写本による縦26.7。
111	天正6	11	13	感状案	兵庫頭	義久	堅紙大	ナシ	後1-1027	平松兼黒田善左衛門	史料島津	島2-26-7	大古1138。
112	天正6	11	13	感状案	中務少輔	義久	堅紙	ナシ	後1-1028	二番箱二	史料島津	島17-2-24	
113	天正6	11	13	起請文	北郷彈正忠	義久		(C)	後1-1030	北郷		島6北郷45。	
114		12	10	書状案	毛利右馬頭	修理大夫義久	堅紙	C	附1-891	三番箱	史料島津	島3-12-14	大古1423、二番箱二(後1-1031)の案文あり。
115				書状案	吉川・小早川		堅紙大	ナシ	後1-1032	(二番箱二)	史料島津	島17-2-26	
116				書状案			堅紙	ナシ	後1-1031	二番箱二	史料島津	島17-2-25	
117	天正6	12	10	書状案	一色駿河守・真木島玄蕃頭	義久	堅紙	ナシ	後1-1033	二番箱二	史料島津	島17-2-27	ウハ書あり。
118		12	17	書状	星野九郎	義久			後1-1035				
119	天正7	1	11	吉書		義久		ナシ	後1-1066				
120				書状案	政所坊		堅紙	ナシ	後1-1075	二番箱二	史料島津	島17-3-1	
121	天正7	3	2	官達状	天草大夫	義久	堅紙大	C	後1-1071	三番箱一	史料島津	島3-12-15	大古1424。
122	天正7	3	27	書状案	(琉球国王)		堅紙	ナシ	後1-1076	二番箱三	史料島津	島17-3-2	
123				感状案	(御炊才八)		堅紙	ナシ	後1-1078	二番箱三	史料島津	島17-3-4	
124		5	6	書状案	御炊大夫	義久	ナシ		附2-38				大古1425。
125	天正7	5	16	書下	御炊大夫	義久	堅紙大	C	後1-1087		史料島津	島3-12-16	
126		5	16	書状	御炊大夫	義久					(神宮文庫所蔵文書)		三重県史料館編中世I(下)二十七。現在所在不明(県史料館解題p1025)。
127		6	14	書状案	天草尾張守	義久		ナシ	後1-1092	国分衆有馬			
128		6	15	書状	上津浦上総介	義久	堅紙	C					
129		10	9	書状案	天草尾張入道	義久	ナシ		後1-1108	三番箱一	史料島津	島3-12-17	影写本による縦18.3。
130	天正7	10	13	起請文写	土持彈正忠	義久	ナシ		後1-1109	土持		島3-12-17	大古1426。
131		2	5	書状案	土持彈正忠	修理大夫義久	ナシ		附2-39	土持			
132		2	8	書状案	土持彈正忠	修理大夫義久	ナシ		附2-40	土持			
133		1	14	書状案	土持彈正忠	修理大夫義久	ナシ		附2-41	土持			
134	天正7	11	上番	書状案	南蛮国日浦兼賢主君			ナシ				須崎2034-139	
135	天正7	12	23	書下	北郷左衛門入道	義久		(C)	家6北郷25	北郷		島6北郷22。	三番箱一(島3-12-18、大古1427)に案文あり。
136	天正7	12	23	書下	北郷左衛門入道	義久	堅紙大	C	後1-1111	三番箱一	史料島津	島3-12-18	大古1427。
137		12	26	書状	豊後守	修理大夫義久	堅紙大	C	家6黒岡27			島3-12-18	影写本による縦27.3。
138		12	28	書状	豊後守	修理大夫義久	堅紙	C	家6黒岡26			島3-12-18	影写本による縦26.7。
139		12	28	書状	豊後守	修理大夫義久	堅紙大	C	家6黒岡28			島3-12-18	影写本による縦27.3。
140		1	11	書状	北郷左衛門入道	義久		(C)	家6北郷93			島6北郷22。	
141		1	11	書状	北郷左衛門入道	義久		(C)	家6北郷94			島6北郷22。	
142		1	25	書状	妙谷寺	義久		C					[東京古典会古典籍古典籍展観大入札会目録]平成7年p99。
143		7	8	書状	兵庫頭	義久	堅紙大	C	後1-371	四八番箱	史料島津	島19-1-9	宛所はウハ書。
144		12	17	書状	北郷左衛門尉入道	義久		(C)	家6北郷87			島6北郷22。	
145		12	17	書状	北郷左衛門尉入道	義久		(C)	家6北郷90			島6北郷22。	
146		11	12	書状	左衛門大輔	義久		(C)	附1-898	左衛門督義久譜	松原神社文書	松原神社文書6171.97-30	家9松原16。
147		12	13	書状	兵庫頭	義久	堅紙大	C	後3-155	四十九番箱	史料島津	島51-2-11	家6有村3。有村文書3071.97-18-11に写。有村家からの召上。
148		12	2	書状	相良	義久	堅紙大	C			慶徳義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良625。
149				判物	前田久右衛門尉	義久		(C)	後3-796	肝付家臣前田三左衛門	(島津義久譜)	島35-1-6	文言検討。附1-298「案文」。家2-635。
150		1	21	書状	相良	修理大夫義久	堅紙大	C			慶徳義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良626。
151		3	13	書状	相良	義久	堅紙大	C			慶徳義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良627。
152	(天正8)	3	28	書状	龍吟庵東堂	義久	堅紙	C			即宗院文書(3071.62-202)		案文が後1-1133。影写本による縦23.0。[東京古典会古典籍古典籍展観大入札会目録]平成19年号、p302に図版あり。
153	天正8	3	28	書状案	龍吟庵東堂	義久	堅紙	ナシ	後1-1133	二番箱三	史料島津	島17-3-5	原本が即宗院文書にあり。
154		7	17	書状案	彦山政所坊	義久	堅紙	ナシ	後1-1150	二番箱三	史料島津	島17-3-6	
155		4	10	書状	賀忠九郎	義久	堅紙	C	後2-22	三番箱	史料島津	島3-12-21	大古1430。二番箱四(後2-8)に案文あり。文面や異なる。

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 理	鹿原旧記	旧記の典拠	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
156	4	10		書状案	賀恵九郎		堅紙	ナシ	後2-8	二二番箱四	史料島津	島17-4-18	三番箱(後2-22)と文言異同あり、「隈本三人への御書案」。
157	4	10		書状案	城拾部太郎		堅紙	ナシ	後1-1331	二二番箱四	史料島津	島17-4-3	
158	4	10		書状案	本田謙岐入道		堅紙	ナシ	後2-24	二二番箱四	史料島津	島17-4-19	
159	8	24		書状案	大友左衛門督入道	修理大夫義久	横切紙	C	附1-1041	四十九番箱	史料島津	島51-1-18	大友家文書録には同内容の9/3付義久書状あり。
160	9	3		書状写	大友左衛門督入道	修理大夫義久		ナシ				大友家文書録3071.36-25-4	
161	天正8	8	11	書下	上井伊勢守	義久		(C)	後1-1155	諏訪氏	(高津義久譜)	島35-1-4	二二番箱三(島17-3-7)に案文あり。
162	(天正8)			書下	(上井伊勢守)	義久	堅紙		後1-1155	二二番箱三	史料島津	島17-3-7	発給後の原本は諏訪氏所蔵か。
163	天正8	10	5	書下	種子島三郎次郎	義久	堅紙	D	後1-1175	種子島氏蔵	種子島文書	種子島文書3071.97-11	二二番箱三(島17-3-8)に案文あり、影写本による縦28.7。
164	天正8	10	5	書下案	種子島三郎次郎	義久	堅紙	ナシ	後1-1175	二二番箱三	史料島津	島17-3-8	発給後の原本が種子島文書にあり。
165	天正9	3	9	感状	伊集院下野守	義久	堅紙	D	後1-1193	伊集院氏	鹿兒島県立図書館	伊集院文書6171.97.21-2	
166	天正9	5	7	書状案	中山王	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後1-1201	二二番箱三	史料島津	島17-3-9	謹上書。
167		5	12	茶書案			堅紙	ナシ	後1-1202	二二番箱三	史料島津	島17-3-10	
168	天正9	6	20	書状案	伯耆		堅紙	ナシ	後1-1205	二二番箱三	史料島津	島17-3-11	
169	天正9	6	28	書状案	伊勢因幡守	義久	横切紙	D	後1-1206	三番箱一	史料島津	島3-12-20	大古1429。
170	天正9	6	28	覚書案	伊勢因幡守	義久	横切紙	ナシ	後1-1207	二二番箱三、案文加治本衆長谷場	史料島津	島17-3-12	
171				書状案	(信長カ)		堅紙	ナシ	後1-1209	二二番箱三	史料島津	島17-3-14	「恐惶」。
172				書状案			堅紙	ナシ	後1-1210	二二番箱三	史料島津	島17-3-15	
173	天正9	8	3	書状案	鞍馬寺妙法坊	義久	横切紙	ナシ	後1-1215	二二番箱三、案文加治本衆長谷場伝左衛門	史料島津	島17-3-19	
174	天正9	11	5	書状案	中山王	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後1-1242	二二番箱三	史料島津	島17-3-20	
175	(天正9)	12	3	書状	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良656。
176	(天正9)	12	12	感状	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良文書。二二番箱三(島17-3-21)に案文あり。
177	天正9	12	12	感状	相良四郎太郎	義久	堅紙	ナシ	後1-1255	(二二番箱三)	史料島津	島17-3-21	原本は相良文書にあり。
178	10	28		書状	榊山兵部大輔	義久	堅紙	D	附2-44		史料島津	島84-13-5	家5-113。
179	天正9	12	21	印判状	船頭妹尾新次衛尉	義久		(D)	後1-1257	根占妹尾	(高津義久譜)	島35-1-4	琉球渡海朱印状。
180	天正10	1	17	印判状	船頭山崎新七郎	義久	堅紙	(D)	後1-1263	坊津山崎	輝津館(寄託)	島35-1-4	琉球渡海朱印状。法量は重水「一九九四」による。
181	(天正10)	1	26	書状	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良667。
182	天正10	3	16	茶書	南林寺	修理大夫義久		(D)	後1-1268	南林寺	(高津義久譜)	島35-1-4	
183	(天正10)	3	27	書状	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良672。
184		6	18	書状案	伊勢因幡守	義久	堅紙	ナシ	後1-1279	二二番箱三	史料島津	島17-3-23	
185	(天正10)	7	9	書状	相良四郎太郎	義久	横切紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良674。
186		7	9	書状案	大友左衛門督	義久	堅紙	ナシ	後1-1282	二二番箱三	史料島津	島17-3-26	
187		7		書状案	大友左衛門督	義久	堅紙	ナシ	後1-1283	二二番箱三	史料島津	島17-3-27	上書は8/2、8/2付の写が大友家文書録5-78丁にあり。
188		9		書状案	進藤筑後守	義久	堅紙	ナシ	後1-1289	二二番箱三	史料島津	島17-3-29	
189		9	15	印判状	船頭磯水对馬丞	義久		(D?)				榊山實之日記(2073-237-4-125)	琉球渡海朱印状。花押影・朱印影。
190		9	17	書状	根占七郎	義久		(D)	後1-1291	袴寝右近重水	(高津義久譜)	島35-1-4	榊氏文書(3071.97-6-4)。二二番箱三(島17-3-28)に案文あり。
191	(天正10)	9	17	書状	根占七郎	義久	堅紙	ナシ	後1-1291	二二番箱三	史料島津	島17-3-28	発給後原本の写は榊氏文書にあり。
192	天正10	9	17	印判状写	日高新介	義久	堅紙	ナシ	家3-216	町田氏正統系譜13	史料島津	島91-4-1-8	琉球渡海朱印状。
193				茶書案	甲斐民部入道	義久	堅紙	ナシ	後1-1319	二二番箱四	史料島津	島17-4-1	
194				茶書案	(頼妹氏)	義久	堅紙	ナシ	後1-1320	二二番箱四	史料島津	島17-4-5	老中茶書案カ。
195				起語文案	相良	義久	堅紙	ナシ	後1-1330	二二番箱四	史料島津	島17-4-2	
196		4	18	書状	甲斐民部入道	義久		(D)	後1-1347	飯野白鳥	(高津義久譜)	島35-1-4	
197		4	19	書状	安国禅寺老和尚	義久		(E→F)	後1-1349	中原兵衛(後28)	(高津義久譜)	島35-1-4	花押型と本文内容が一致せず。
198	天正11	5	13	起語文	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-16	相良676。
199	(天正11)	7	11	書状案	合志	義久	横切紙	ナシ	後1-1353	二二番箱四	史料島津	島17-4-6	
200	(天正11)	7	11	書状案	甲斐民部入道	義久	横切紙	ナシ	後1-1354	二二番箱四	史料島津	島17-4-7	
201		8	26	書状写	阿蘇	義久		ナシ					「大日本古文書阿蘇家文書」2-p735。
202		9		書状案	大友殿	義久	堅紙	ナシ	後1-1357	二二番箱四	史料島津	島17-4-8	
203	天正11	11	18	書下案	宝寿坊	義久	堅紙	ナシ	後1-1371	二二番箱四	史料島津	島17-4-9	
204	天正12	1	3	吉書	歳徳神	修理大夫義久			後1-1374				「龍伯」。
205				書状案	秋月	義久	堅紙	ナシ	後1-1378	二二番箱四	史料島津	島17-4-10	
206				書状案	兩津江	義久	堅紙	ナシ	後1-1379	二二番箱四	史料島津	島17-4-11	「兩津江方へ、二通」。
207				書状案	宮城・時枝	義久	堅紙	ナシ		二二番箱四	史料島津	島17-4-17	「二通」。
208		3	17	願文案	下之坊福寿院代官岡州住持快上人			ナシ	後1-1392				
209		5	22	書状案	彦山座主	義久	堅紙	ナシ	後1-1421	二二番箱四	史料島津	島17-4-13	後2-44にもあり。
210		6	24	書状	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良677。
211		6	29	書状	相良四郎太郎	義久	横切紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良679。
212		8	8	書状	相良四郎太郎	義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良681。
213		8	2	書状案	彦山座主御坊	義久	横切紙	ナシ	後2-171	二二番箱五	史料島津	島17-6-14	「於八城」。
214	天正12	11	9	印判状	船頭鳥原福助	義久	堅紙	D			輝津館(寄託)		琉球渡海朱印状。大日本史料11編10冊146頁「島原サダ氏所蔵文書」
215		12	28	書状	相良四郎太郎	修理大夫義久	堅紙	D			慶應義塾大学	相良文書3071.94-4-11	相良682。謹上書。
216		1	19	書状案	秋月	義久	堅紙	ナシ	後2-5	二二番箱四	史料島津	島17-4-15	
217				書状案	隆信討果	義久	横切紙	ナシ	後2-9	二二番箱四	史料島津	島17-4-14	
218		4	13	書状案	宇久大相守	義久	横切紙	ナシ	後2-35	二二番箱四	史料島津	島17-4-22	後2-27には上書アリ。
219	天正13	4	26	書状	一色駿河守・真木島玄蕃頭	義久	横切紙	D	後2-31	三番箱	史料島津	島3-12-22	大古1431。
220	天正13	4	26	書状	真木島玄蕃頭	義久	横切紙	D	後2-32	三番箱	史料島津	島3-12-23	大古1432。
221	天正13	4		書状案	一色駿河守	義久	堅紙	ナシ	後2-36	二二番箱四	史料島津	島17-4-23	
222		4	26	書状	吉川駿河守	義久	堅紙	D				吉川文書3071.77-20-2-48	大日本古文書吉川家文書73号に抄録。影写本による縦18.4。
223	天正13	4		書状案	柳沢	義久	堅紙	ナシ	後2-34	二二番箱四	史料島津	島17-4-21	
224		5	15	書状案	宇久次郎	義久	堅紙	ナシ	附1-1004	四十九番箱	史料島津	島51-1-12	
225	天正13	5	19	書状案	井間	義久	横切紙	ナシ	後2-42	二二番箱四、案文加治本衆長谷場	史料島津	島17-4-26	
226	天正13	5		書状案	宗誓	義久	堅紙	ナシ	後2-43	二二番箱四、案文加治本衆長谷場	史料島津	島17-4-27	
227	天正13	6		書状案	琉球国王	藤原義久		ナシ	後2-46				
228	天正13	6	20	書状案	伊集院右衛門大夫	義久	堅紙	ナシ	後2-52	二二番箱四	史料島津	島17-4-29	
229	天正13	7	18	書状案	伊集院右衛門大夫	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後2-56	三番箱	史料島津	島3-12-24	大古1433。
230	(天正13)	10	20	書状案	羽柴美濃守	義久	堅紙	ナシ	後2-97	二二番箱四	史料島津	島17-4-32	
231	(天正13)	11	6	感状	新納武藏守	義久	堅紙	D	後2-100	新納		新納文書3071.97-2-1	影写本による縦30.8。
232	(天正13)	11	20	書状	伊勢因幡入道	義久	横切紙	D			史料	原本0071-70	史料編纂所所蔵「高津義久書状」。
233		12	13	書状案	毛利右馬頭	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-112	三番箱	史料島津	島3-12-25	大古1434。
234		12	13	書状	宗易軒	義久	横切紙	D			早稲田大学	灰野 伸三郎氏所蔵文書3071.36-45-25	影写本による縦17.5。
235		1	11	書状案	細川兵部入道	義久		ナシ	後2-121				「上井兼兼日記」天正14年1月22日条。

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿限旧記	旧記の由典	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
236		3	23	書状	兵庫頭	義久	堅紙大	D	後2-129	大口兼有村	史料島津	島51-1-23	家6有村2、有村文書3071.97-181に写あり。有村家からの召上。
237	天正14	4	6	起請文案	能造寺民部大輔	義久	堅紙大	D	後2-130	三番箱	史料島津	島3-12-26	大古1435。
238	天正14	5	1	連署状写		義久		ナシ					忠平連署。鹿児島県立図書館本「柳山玄佐自記並雑」[旧記月報]16
239		6		書状案	進藤筑後守		堅紙	ナシ	後2-139	二二番箱五	史料島津	島17-6-2	
240	(天正14)	7		書状案	毛利右馬頭	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-148	二二番箱五	史料島津	島17-6-4	謙上書。
241	(天正14)	8	3	感状案	甲斐左近将監・甲斐長門入道		堅紙	ナシ	後2-172	二二番箱五	史料島津	島17-6-3	甲斐左近将監に合点。
242		8	4	書状案	内空園備前守	義久	横切紙	ナシ	附1-1003	四十九番箱	史料島津	島51-1-21	
243	天正14	8	27	起請前書			堅紙	ナシ	後2-177	二二番箱五	史料島津	島17-6-5	従御前武庫榎へ御申文。
244	天正14	9	21	感状									『佐賀県史料集成』26小城藩士佐嘉差出古文書26。
245	天正14	9	21	感状	星野	義久		D			星野家文書	星野文書6171.92-38	『佐賀県史料集成』28星野家文書1。
246	天正14	9	27	書状案	岡白	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-184	二二番箱五	史料島津	島17-6-8	
247	天正14	9	27	書状案	羽柴美濃守	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-188	三番箱	史料島津	島3-12-27	大古1436。
248	天正14	9	27	書状案	石田治部少輔	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-183	三番箱	史料島津	島3-12-28	大古1437。
249	天正14	9	27	書状案	徳雲軒・施薬院	義久	横切紙	ナシ	後2-185	三番箱	史料島津	島3-12-29	大古1438。
250	天正14	9	27	書状案	星野	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-186	二二番箱五	史料島津	島17-6-6	星野文書(6171.92-38)の案文。
251		9		書状案	(志賀道輝)		堅紙	ナシ	後2-187	二二番箱五	史料島津	島17-6-7	
252		12	20	書状	入田丹後入道	義久		D	後2-224			入田文書2071.96-11	入田文書(「宮崎県史」1)。
253	天正15	1	11	吉書		義久							「薩藩先公貴翰」乾69号、小林士生駒十郎太郎蔵。
254	天正15	1	19	書状案	羽柴美濃守	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-230	二二番箱五	史料島津	島17-6-9	
255	天正15	1	19	書状案	石田治部少輔	修理大夫義久	横切紙	ナシ	後2-231	二二番箱五	史料島津	島17-6-10	
256	(天正15)	1	19	書状案	宰相	義久	横切紙	ナシ	附1-998	四十九番箱	史料島津	島51-1-28	
257				書状	たれにても				附2-36				
258	天正15	2	25	印判状	橋本京亮	義久		(D)	後2-236	佐多兼橋本と左衛門	(島津義久譜)	島35-1-5	琉球渡海朱印状。
259		3	17	書状	禅山安芸守	義久			後2-259				家5-420。
260	天正15	3	17	感状	伊集院下野守	義久		D	後2-260	伊集院久治譜	鹿児島県立図書館	伊集院文書6171.97.21-4	二二番箱五に廿日付案文あり。
261	天正15	3	20	感状案	伊集院下野守	義久	堅紙大	ナシ	後2-260	二二番箱五	史料島津	島17-6-12	廿日付。
262	天正15	3		感状	谷口雅五郎兵衛	修理大夫義久		(D)				谷口文書2071.96-4	文言等要検討。
263		4	3	書状案	真木島玄蕃頭	義久		ナシ	後2-284	岩切二右衛門			
264		5	16	書状	北郷入道	義久		(D)	家6北郷27			郡城島津家文書6171.96-15-4-50	
265		5	16	書状	北郷入道	義久	横切紙	D	後2-290	四十八番箱	史料島津	島19-1-16	北郷文書の案文?
266		5	26	書状	中務少輔	義久			後2-338	相良源五左衛門			
267	天正15	6	11	条書		義久			後2-343	三番箱	史料島津	島3-12-30	大古1439。
268		4	13	書状案	山門三院	修理大夫義久	堅紙	ナシ	附1-904	三番箱	史料島津	島3-13-25	大古1479。
269		4	15	書状案	種子島三郎二郎	修理大夫義久	堅紙大	ナシ	附1-905	三番箱	史料島津	島3-13-26	大古1480。
270		8	2	書状	大乗院	義久		(D)	後1-806	大乗院	(島津義久譜)	島35-1-4	
271		12	16	書状案	薩摩守	修理大夫義久	堅紙大	ナシ	附1-1002	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-15	
272		2	23	書状	兵庫頭	義久			附2-28				
273	(天正15)	10	21	書状	種子島三郎次郎	義久		(D)	家4-47	種子島家譜	種子島家譜	種子島家譜2075-163-4	
274		11	3	書状	喜入拱津入道	義久			後2-396				
275		9	14	連署状	根占七郎	義久		ナシ	後2-377				義弘連署。
276		12	17	書状	新納近江守	修理大夫義久			後2-407				
277		5	24	書状	町田出羽守	龍伯	堅紙大		家3-265	町田氏正統系譜19	史料町田	島91-4-1-3	下部欠損。
278		8	6	書状	喜入式部大輔・柳山安芸入道	竜伯	堅紙大	D	後2-399		史料柳山	島84-10-18	家5-194。
279		1	11	書状	新納四郎	修理大夫龍伯			後2-406				
280		1	12	書状	八幡山泉坊	義久	横切紙	D				南部文書3071.61-5-8	影写本による縦167。
281	(天正16)	1	13	書状	新納武藏入道	竜伯	折紙	D?	後2-416	新納忠元文書		新納文書3071.97-2-1、42J	
282		1	21	書状	山田越前守	義久		(D)	後2-417	山田弥九郎有盛、義久譜	(島津義久譜)	島35-1-5	
283		2	11	書状	北郷左衛門入道	義久		(D)	後2-424			郡城島津家文書6171.96-15-4-71	家6北郷34。
284		3	5	書状	西坊	義久	横切紙	D				三千院文書3071.62-10-4	影写本による縦167。切封墨引あり。
285	(天正16)	5	10	書状	新納武藏入道	龍伯	横切紙	D				新納文書3071.97-2	
286		5	21	書状	鹿之老中	龍伯	折紙	D	後2-325	本田	史料本田	島80-21-2-7	家10本田7。
287	(天正16)	5	11	書状	上原長門入道	竜伯	横切紙	D	後2-465			上原文書3071.97-24-1	影写本による縦167。
288	天正16	6	15	起請前書			堅紙大	ナシ	後2-473	二二番箱五	史料島津	島17-6-15	
289		7	28	書状案	(薩州・島津忠辰)		堅紙大	ナシ	後2-493	二二番箱五	史料島津	島17-6-17	
290	天正16	8	12	書状案	中山王	修理大夫義久	堅紙大	ナシ	後2-504	三番箱	史料島津	島3-12-31	大古1440。
291		8	12	連署状	嶋修入龍伯	嶋修入龍伯		ナシ	後2-502	案文在淵辺仲兵衛			義弘連署。
292	天正16	8	16	書状写	長岡兵部大輔入道	嶋修入龍伯					京都御所東山御文庫	台紙付写真-614-7955	史料編纂所所蔵台紙付写真「島津義久古今伝授誓紙案」。
293		8	17	書状	御師御炊夫	龍伯		D					「思文閣古書資料目録」223(2011年)p149、168×47.1。
294	天正16	8	23	判物	木下道正宗因	龍伯		ナシ	後2-507				
295	天正16	8	27	起請文	石田治部少輔・長岡兵部入道	島津修理大夫入道龍伯	堅紙大	D			永青文庫	細川侯爵家文書	永青文庫研究センター編「細川家文書」總巻期84号、血判起請文、美彦山宝印。
296	(天正16)	9	8	書状	新納武藏入道	竜伯	折紙	E	後2-516			新納文書3071.97-2	
297	天正16	9	14	書状案	石治少・幽齋	義久	堅紙大	ナシ	後2-524	二二番箱五	史料島津	島17-6-19	
298	天正16	9	晦	書下案	村上刑部少輔・源三郎	義久	堅紙大	ナシ	後2-530	二二番箱五	史料島津	島17-6-20	「上之四郎」。
299		11	25	書状案	松浦肥前守	龍伯			後2-550				「雑抄」に天正16年とあり。
300		12	5	書下	旅庵	竜伯		(E)	後2-405		(新納氏譜四)	島42-2-2-5	
301	天正16	12	12	起請文	北郷讃岐守	龍伯		(D→E)	後2-549	北郷文書		郡城島津家文書6171.96-15-4-101	家6北郷46。
302		12	12	書状	北郷左衛門入道	龍伯		(D→E)	後2-553			郡城島津家文書6171.96-15-4-73	家6北郷35。
303				書状案	石田		堅紙	ナシ	後2-535	二二番箱五	史料島津	島17-6-21	
304				書状案			堅紙	ナシ	後2-564	二二番箱六	史料島津	島17-7-1	
305	(天正17)	1	17	書状	新納武藏入道	龍伯	折紙	E?	後2-567			新納文書3071.97-2	
306		1	20	書状写	又四郎	龍伯			後1-959	垂水邸			
307	天正17	2	16	判物	福昌寺	龍伯		(D→E)	後2-579	福昌寺	(島津義久譜)	島35-1-5	
308	天正17	4	5	土宜注文	琉球国王	鹿兒島、朱印「義久」	堅紙大		後2-585	三番箱	史料島津	島3-12-32	大古1441。
309	天正17	5	15	条書	龍伯	堅紙大	D→E		後2-592	三番箱	史料島津	島3-12-33	大古1442。
310	天正17	5	24	連署起請文	(袖判)	堅紙大	D→E		後2-593	三番箱	史料島津	島3-12-34	大古1443、袖に義久・義弘の判あり。
311	天正17	6	26	書下	新納武藏入道	龍伯	横切紙	D→E	後2-594			新納文書3071.97-2	影写本による縦28.5。
312	天正17	7	2	判物	伊集院下野入道	龍伯		D→E	後2-595		鹿児島県立図書館	伊集院文書6171.97.21-4	
313		7	3	書状	玄佐	龍伯	堅紙大	D	附2-59		史料柳山	島84-10-20	家5-196。
314	天正17	7	5	判物	鎌田出雲守	龍伯	堅紙大	E	後2-596			鎌田文書3071.97-12	影写本による縦29.1。
315		8	4	書状	安宅三郎兵衛尉	義久			伊6南聘	南聘紀考			11/2書状「南宗頼」、琉球使僧により比定。
316	天正17	8	21	判物	大慈寺	龍伯		(D→E)	後2-608	大慈寺文書	(島津義久譜)	島35-1-5	旧記家6大慈寺文書御文書写留帳34。
317		10	22	書状	川上武藏入道	龍伯	横切紙		後2-395		史料川上文書	川上文書0071-18	封紙あり。「龍伯」。天正17年か。

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿殿旧記	旧記の典拠	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
318	10	22		書状	河田駿河入道	龍伯		E	後2-616	川田余右衛門国彦			日記家6川田文書23。
319	11	2		書状	兵庫頭	龍伯	横切紙	ナシ	附1-995	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-9	三成の美濃橋地から天正17年か。
320	6	12		書状	上井伊勢守	龍伯		(D-E)	後2-344	講読氏文書	(高津義久譜)	島35-1-5	
321	天正18	6	15	判物	税所越前守	龍伯		(D-E)	後2-666	税所弥左衛門篤能	(高津義久譜)	島35-1-5	
322	7	19		書状	北郷入道・讃岐守	龍伯		(E)	後2-674				家6北郷38。
323	7	19		書状	花林寺	龍伯	堅紙	D	後1-856				霧島神宮文書3071.97-13
324	7	21		書状	大乗院	龍伯	折紙	D	後2-675	四拾八番箱	史料島津	島19-1-17	影写本による縦28.5。
325	7	25		書状	福昌寺	龍伯			後2-678				
326	(天正18)	8	21	書状案	琉球国円覚寺	義久	横切紙	ナシ	後2-688	三番箱	史料島津	島3-12-36	大古1445。
327	天正18	8	21	書状	琉球国王	修理大夫義久、朱印(義久)	堅紙	E				下浮穴郡役所蔵文書3071.83-19	朱印・花押、影写本による縦33.7。
328	天正18	8	21	書状案	琉球国王	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後2-687	二番箱六	史料島津	島17-7-7	通上書。
329	9	12		書状	祐乘法印	嶋入龍伯		(E)	後2-692	吉田兼成主税	(高津義久譜)	島35-1-5	
330	(天正18)	9	26	判状	橋和泉拯	修理大夫義久	堅紙	E			高古集成館	町田文書6171.97-43	琉球渡海朱印状。
331	天正18	9	28	判状	橋和泉拯	義久		(E)	後2-694	小根吉兼磯水仲兵衛	(高津義久譜)	島35-1-5	琉球渡海朱印状写。
332	天正18	12	5	指出案			横切紙	ナシ	後2-708	二番箱六	史料島津	島17-7-8	
333	①	10		書状案	意斎老	龍伯	横切紙	ナシ	後2-727	御文庫三番箱	史料島津	島3-12-37	大古1446。
334				書状案			堅紙	ナシ	後2-721	二番箱六	史料島津	島17-7-9	
335				書状案			横切紙	ナシ	後2-738	二番箱六	史料島津	島17-7-10	
336	2	18		書状	川上武蔵入道	龍伯		(E)	附1-965	川上経久譜	(川上氏経久譜)	島42-2-3-3	川上 文書にナシ。川上経久、天正20/1/2没。
337	2			書状案	兵庫頭		堅紙	ナシ	後2-740	二番箱六	史料島津	島17-7-14	
338	天正19	4	7	書下	袈裟菊	龍伯		E	後2-747		高古集成館		日置島津家文書。家9日置1。[堂満一九九〇]参照。
339	4	17		書状	加藤主計頭	嶋津入道龍伯	横切紙	D	後2-751	御文庫四十九番箱、案文在加世田來受徳善左衛門定延	史料島津	島51-2-2	
340	6	2		書状案	大谷治部卿	龍伯	横切紙	ナシ	後2-762	御文庫三番箱	史料島津	島3-12-38	大古1447。発給後の原本が武家手鑑にあり。
341	6	2		書状	大谷治部卿	龍伯	横切紙	E			尊経閣文庫		案文が三番箱(後2-762、大古1447)にあり。[武家手鑑]下ノ二五
342	6	22		書状	兵庫頭	龍伯	折紙	D	後2-357	御文庫三番箱	史料島津	島3-12-35	大古1445、渡唐船朱印。
343	(天正19)	6	26	書状	鎌田出雲守ほか2名	龍伯	堅紙	E	後2-1151				鎌田文書3071.97-12
344	8	26		書状	新納武蔵入道	龍伯	折紙	E	後2-775				新納忠元文書3071.97-2
345	9	19		書状	又一郎	龍伯	折紙	E	後2-777	四拾八番箱	史料島津	島19-1-18	
346	(天正19)	10		書状			堅紙	ナシ	後2-784	二番箱六	史料島津	島17-7-19	家3-236にもアリ。
347	10	2		書状	石田治部少輔・齋富	龍伯	横切紙	E	後2-791	渋谷次郎左衛門	史料島津	島19-1-19	四十八番箱に入る？
348	10	21		書状	安宅三郎兵衛尉	嶋津入道龍伯			後2-729				後2-541と関連か。
349	10	21		書状	祐乘法印		堅紙	ナシ	後2-541	二番箱五	史料島津	島17-6-22	後2-729と関連か。
350				書状案			横切紙	ナシ	後2-739	二番箱六	史料島津	島17-7-11	後2-645にもアリ。義久譜では天19/①と比定。
351	10	24		書状	中山王	修理大夫義久		(E)	後2-785	寺田惣右衛門	(高津義久譜)	島35-1-5	
352	11			書状案	兵庫頭		堅紙	ナシ	後2-786	二番箱	史料島津	島17-7-20	
353	11	2		書状	兵庫頭	龍伯	折紙	ナシ	後2-787	御文庫三番箱	史料島津	島3-12-39	大古1448。
354	11	7		書状	道正庵宗因老	龍伯			附2-66				
355	12			書状案	石田		堅紙	ナシ	後2-795	二番箱	史料島津	島17-7-22	
356	天正19	12	19	書状案	琉球国王	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後2-796	二番箱	史料島津	島17-7-23	
357	天正20	1	11	起請文前書	(久保)		堅紙	ナシ	後2-807	二番箱	史料島津	島17-8-1	
358	1	26		書状	安宅三郎兵衛尉・麻生吉左衛門尉	嶋津入龍伯		(E)	後2-816	田中善兵衛	(高津義久譜)	島35-1-5	
359	1	27		連署状	喜入式部大輔	龍伯		(E)	後2-817	当家	(喜入季久譜)	島42-2-7	義弘連署。
360	2			書状	賀藤主計頭		堅紙	ナシ	後2-832	二番箱七	史料島津	島17-8-5	
361				書状案			堅紙	ナシ	後2-845	二番箱七	史料島津	島17-8-7	
362	4	8		書状案	琉球国建善寺	龍伯	堅紙	ナシ	後2-851	二番箱	史料島津	島17-8-6	草案。
363	天正20	4	28	書下	新納武蔵入道	龍伯	堅紙	E	後2-865	新納氏元譜			影写本による縦31.3、二番箱(島17-8-8)に案文あり。
364	天正20	4	28	書下案	新納武蔵入道	龍伯	堅紙	ナシ	後2-865	二番箱七	史料島津	島17-8-8	原本が新納文書にあり。
365	天正20	5	3	書下	野村備中守	龍伯		(E)	後2-876	野村但馬盛綱	(高津義久譜)	島35-1-5	
366	天正20	5	4	条書	伊地知伯善入道ほか	(補判)		E	後2-880				鎌田文書は写。新納文書、家3-239にもアリ。補判。
367	天正20	5	4	条書案	本田右衛門依ほか	龍伯	堅紙	ナシ	後2-879	三番箱	史料島津	島3-12-40	大古1449。
368	天正20	5	4	判物	伊地知伯善入道ほか	龍伯		E	後2-878				鎌田文書は写。新納文書、家3-238にもアリ。
369	5	15		書状	町田出羽守	龍伯	堅紙	E	家3-240	町田氏正統系譜17	史料町田	島91-4-1-7	
370	7			書状	(義弘)		堅紙	ナシ	後2-917	二番箱七	史料島津	島17-8-10	
371	7			書状案	又一郎		堅紙	ナシ	後2-918	二番箱七	史料島津	島17-8-11	
372				書状案	(幸胤)		堅紙	ナシ	後2-919	二番箱七	史料島津	島17-8-12	
373	(天正20)	7	23	書状	又一郎	龍伯	折紙	E	附1-928	御文庫三番箱	史料島津	島3-12-41	大古1450。
374	天正20	7	26	起請文	袈裟菊	義久			後2-940	日置島津家文書、家9.3	高古集成館		日置島津家文書。家9日置3。
375	天正20	7	26	書状案	琉球国中山王	修理大夫義久	堅紙	ナシ	後2-934	二番箱	史料島津	島17-8-13	通上書、付年号。
376	7	29		書状	齋富	嶋津入龍伯		(E)	後2-942	川野雪雪	(高津義久譜)	島35-1-5	
377	(天正20)	5	21	書状	町田出羽守・誼談合衆	龍伯	堅紙	E	附2-1205	町田氏正統系譜17	史料町田	島91-4-1-6	家3-241にもアリ。
378	(天正20)	7	18	直書	左衛門入道	龍伯			後2-931	町田氏正統系譜17、渋谷四郎左衛門蔵			家3-242にもアリ。
379	7	21		書状	大慈寺	龍伯			後2-936	袈裟菊丸常久譜	高古集成館		日置島津家文書。家9日置2。後2-937に写し？
380	7	27		書状	大慈寺	龍伯			後2-937				後2-936の写し？
381	天正20	9	3	領知目録	福昌寺	(補判)		黒印	後2-956	福昌寺			
382	天正20	9	3	老中書状	興国寺	(補判)		黒印	後2-957	興国寺			町田久倍書状。
383	天正20	9	3	老中書状	泰平寺	(補判)		黒印	後2-958	泰平寺			町田久倍書状。
384	天正20	9	3	領知目録	泰平寺	(補判)		黒印	後2-959	泰平寺			
385	天正20	9	5	老中書状	南林寺	(補判)		黒印	後2-960	南林寺			町田久倍書状。
386	天正20	9	5	老中書状		(補判)		黒印			校園神社		町田久倍書状。[重永一九九四]参照。
387	天正20	9	6	老中書状	広濟寺	(補判)		黒印	後2-961	広濟寺蔵			町田久倍書状。家3-190。
388	天正20	9	6	領知目録	広濟寺	(補判)		黒印	後2-962	広濟寺蔵			家3-191。補判は谷迫はるえ「大隅国分町田家古文書集」による。
389	天正20	9	7	領知目録		(補判)	堅紙	ナシ	後2-963	花林寺	霧島神宮文書3071.97-13		影写本による縦31.0。
390	天正20	9	7	老中書状		(補判)		黒印	家3-244	町田氏正統系譜17、伊作大汝八幡宮神人縁原某蔵			町田久倍書状。
391	天正20	9	16	老中書状	般若寺	(補判)		黒印	後2-965				町田久倍書状。
392	天正20	9	16	領知目録	般若寺	(補判)		黒印	後2-966				
393	9	27		老中書状	抱節	(補判)		黒印	附2-1175	伊集院久治譜	鹿児島県立図書館		町田久倍書状。
394	天正20	11	2	老中書状	米屋源三郎	(補判)		黒印	後2-981	山川蓼田佐五左衛門蔵			町田久倍書状。
395	11	9		書状	伊勢上総守	龍伯			後2-988				

番号	年	月	日	文書名	宛所	差出書	料紙	花押	鹿限日記	日記の由典	現所蔵	編纂所請求記号	備考
396		11	12	書状	兵庫頭	電白	折紙	E	後2-991	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-20	
397	天正20	11	12	老中書状	寺師源三郎	(袖判)	黒印		家6-1	寺師文書			町田久倍書状。
398	天正20	11	15	老中書状	伴野左近進	(袖判)	黒印		家6-3	友野文書			町田久倍書状。後欠の袖判領知目録写(家6友野7)。後2-996と同じ?
399	天正20	11	15	領知目録	前田源三郎	(袖判)	黒印		後2-996	加世田十前田茂石衛門			
400	天正20	11	19	領知目録	寺師源三郎	(袖判)	黒印		家6-2	寺師文書			阿多盛淳ほか3名連署。
401	天正20	11	20	領知目録		(袖判)	黒印				指宿文書	指宿文書6171.96-7	鎌田政近ほか2名連署。「宮崎県史」2-p734。
402	天正20	11	20	領知目録	指宿左近兵衛尉	(袖判)	黒印		家10-22	指宿文書			
403	天正20	11	29	領知目録	阿多掃部助	(袖判)	黒印		家3-246	町田氏正統系譜17			鎌田政近ほか4名連署。
404	天正20	12	1	領知目録	肝付助三郎	(袖判)	黒印		後2-1001	百軒嘉左衛門			
405	天正20	12	6	領知目録	早水豊前守	(袖判)	黒印		後2-1004				
406	天正20	12	20	領知目録	安楽大炊助	(袖判)	黒印		後2-1009				
407	天正20	12	20	領知目録	指宿左近兵衛尉	(袖判)	黒印		後2-1011				
408	天正20	12	20	領知目録	平田入見入道	(袖判)	黒印				都城島津家文書	都城島津家文書6171.96-15-1	
409		12	20	書状	樺山入道	電白	堅紙	E	後2-1010		史料樺山	島84-10-21	
410	天正20	12	28	領知目録	木通志摩掾	(袖判)	黒印		後2-1014	木通喜左衛門尉			鎌田政近ほか4名連署。
411	天正20	12	29	領知目録	阿多掃部助	(袖判)	黒印		後2-1013				鎌田政近ほか4名連署。
412	天正21	1	4	寄進状		龍伯	(E)		後2-1037	平田布施藏院	(島津義久譜)	島35-1-5	
413	文禄2	2	7	領知目録	長谷場越前守	龍伯	黒印		後2-1065	長谷場氏文書	史料長谷場	島0071-7-3	町田久倍ほか2名連署。
414		3	8	書状	又八郎	龍伯	(E)		後2-1079	加治木兼成権右衛門	(島津家久譜)	島35-1-10	
415	文禄2	3	27	領知目録	加世田安房入道	(袖判)	堅紙	黒印			加世田文書		鎌田政近・長寿院盛淳連署。加世田不二男「加世田家譜並びに文書」
416	文禄2	4	5	領知目録	池田与介	(袖判)	堅紙	黒印			史料島津	島4-12-7	町田久倍・鎌田政近連署。大古1197。
417	文禄2	4	6	領知目録	一乘院	(袖判)	黒印		後2-1093	坊泊一乘院			町田久倍・鎌田政近連署。
418	文禄2	4	22	願文	彦山三所権現	龍伯	(堅紙)	E	家3-251	町田氏正統系譜18	史料町田	島91-4-1-4	
419		5	7	書状	町田出羽守	龍伯	堅紙	E	家3-252	町田氏正統系譜18	史料町田	島91-4-1-1	
420		5	18	書状	鎌田出雲守・町田出羽守・長寿院	電白			後2-1120	町田久倍譜			家3-253。文禄2年カ。
421	文禄2	5	28	領知目録	濱田民部左衛門尉	(袖判)	黒印		後2-1132				町田久倍ほか2名連署。
422	文禄2	5	29	領知目録	長谷場越前守	(袖判)	黒印		後2-1133	長谷場氏文書	史料長谷場	長谷場文書0071-7-3	町田久倍ほか2名連署。
423		6	5	書状	石田治部少輔	龍伯	堅紙	E	家3-254	町田氏正統系譜18	史料町田	島91-4-1-5	
424		7	10	条書		電白	堅紙	E	附2-1204		高古集成館	町田文書6171.97-43	家3-225。
425		7	28	書状	兵庫頭	龍伯	折紙	E	後2-1360	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-23	
426		8	6	書状	町田出羽守・鎌田出雲守	龍伯			附2-1203	町田存松譜			家3-256。
427		8	7	書状写	摩文仁	義久					金姓家譜		金姓家譜(神興県立図書館所蔵、東恩納寛啓文庫「系譜抄」所収)。
428		9	4	条書		龍伯			附2-1202	町田存松譜			家3-327。
429		10	2	書状	白浜次郎左衛門・旅庵	龍伯	折紙	E	後2-1224	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-21	
430	文禄2	12		書状写	中山王	修理大夫入道電白	堅紙	E	後2-1250	伊知地真兵房→三番箱?	史料島津	島3-12-43	大古1452、写が後2-1249か。
431	文禄2	12		書状写	中山王	修理大夫入道電白			後2-1249	高城朝詔院	東霧島神社文書		編書アリ。「宮崎県史」1東霧島神社文書。
432				起語文前書(寺沢)			堅紙	ナシ	後2-1310	二番箱八	史料島津	島17-9-2	「電白より寺沢殿への返案」。
433	文禄3	7	8	起語文	伊集院右衛門入道		堅紙	ナシ	後2-1333	二番箱八	史料島津	島17-9-3	
434		9	17	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後2-1376	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-24	
435		11	2	書状	又八郎	龍伯	堅紙	E	附2-49		史料島津	島2-26-9	日記、大古1140は文禄3年と比定。
436		11	10	書状	又八郎	電白	折紙	E	後2-1419	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-25	
437		11	13	書状	兵庫頭	電白	折紙	E	後2-1420	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-26	家3-268にも写アリ。島津忠清、文禄4/7/4没。
438		12	16	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後2-1429	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-27	
439	文禄4	2	17	感状	平田豊前守	龍伯	(E)		後2-1462	平田民部左衛門	(島津義久譜)	島35-1-5	
440		2	21	感状	平田豊前守	龍伯	(E)		後2-1463		(島津義久譜)	島35-1-5	
441		2	28	書下	鎌田出雲守	電白	堅紙	E	後2-1467		鎌田文書3071.97-12		影写本による縦28.0。
442		2	28	書下	新納武蔵入道	龍伯	堅紙	E	後2-830		新納文書3071.97-2		文禄4カ、影写本による縦28.5。
443		2	28	書下案	新納武蔵入道	電白	堅紙	E		三番箱	史料島津	島3-13-1	文禄4カ、大古1455。
444		2	28	書下	町田出羽入道	電白	E		後2-1076	町田久倍譜	高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14	文禄4カ。家3-250。
445		2	28	書下	伊集院下野入道	電白	E		後2-1469	伊集院久治譜	鹿児島県立図書館	伊集院文書6171.97.21-4	文禄4カ。
446		4	13	書状	兵庫頭	龍伯	折紙	E	後2-1497	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-29	
447		5	17	書状	又八郎	電白	折紙	E	後2-1516	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-30	
448		5	20	書状	梅節	電白	折紙	E→F	後2-1520	伊集院久治譜	鹿児島県立図書館	伊集院文書6171.97.21-4	
449		6	6	書状	又八郎	電白	折紙	E	後2-1535	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-31	
450		6	2	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	附1-934	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-10	卯朔、大古1464。
451	文禄4	7	4	連署状	石馬頭	龍伯	堅紙	E	後2-1555	御文庫三番箱	史料島津	島3-12-44	義弘連署。大古1453。
452	文禄4	7	4	連署状	幽斎老	龍伯	堅紙	E			水育文庫		義弘連署。水育文庫研究センター編「細川家文書」機微巻106号。
453	文禄4	7	5	連署状	北郷左衛門入道・宗次郎	電白	(E)			北郷文書	都城島津家文書6171.96.15-4-106		義弘連署。家6北郷50。
454		7	20	書状	又八郎	龍伯	横切紙	E	後2-1568	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-2	
455		7	22	書状	けさ菊	龍伯	折紙	E			史料日置島津家文書	日置島津家文書0071-60	熊本県史料3-p293に釈文あり。
456	(文禄4)	7		起語文前書				ナシ		三番箱		島3-12-45	大古1454。
457		8	21	書状	きよ水	龍伯			後2-1578	垂水邸			
458	(文禄4)	8	27	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後2-1583	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-4	
459	(文禄4)	9	3	書状	又八郎	義久	折紙	E→F	後2-1589	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-5	
460		10	2	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-1608	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-6	
461		11	12	書状	又八郎	龍伯	横切紙	E	後2-1629	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-5-1	
462		1	15	書状	兵庫頭	龍伯	折紙	E	後2-167	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-24	
463		1	15	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-3-6	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-7	
464		1	20	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-3-9	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-8	
465		1	23	書状	又八郎	電白	折紙	E	後2-3-15	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-9	
466		1	28	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-3-17	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-10	
467	文禄5	2	3	判物	園書頭	龍伯	(E?)		後2-3-19	園書頭忠長譜	(尚久流忠長譜)	島42-2-6-4	
468	(文禄5)	2	6	書状	又八郎	龍伯	横切紙	E→F	後2-3-20	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-11	
469		3	5	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-3-32	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-12	
470		3	19	書状	又八郎	電白	折紙	E	後2-3-40	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-13	
471	(文禄5)	4	16	書状	又八郎	電白	横切紙	E	後2-3-50	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-16	
472		6	19	書状	又八郎	龍伯	横切紙	E→F	後2-3-74	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-17	
473	文禄5	7	4	連署状		龍伯			後2-79	官庫			義弘・石田三成連署。「薩藩先公費簿」70。
474		7	25	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後2-1570		史料島津	島19-2-3	
475		7	26	書状	又八郎	電白	横切紙	E	後2-88	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-18	
476		7		書状案	秋月宗閏	堅紙	ナシ		附1-1061	二番箱	史料島津	島17-11-17	秋月種実、文禄5/9/26没。
477	(文禄5)	7	1	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-89	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-19	
478		8	14	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後2-299	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-31	
479		9	3	書状	武庫	電白	折紙	E→F	後2-105	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-20	ウハ書は「義久」。
480	(文禄5)	9	15	書状	又八郎	電白	横切紙	E	後2-114	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-21	

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿原旧記	旧記の典拠	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
481	(文禄5)	10	24	書状	又八郎	竜伯	横切紙	E	後3-125	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-22	
482		11	26	書状	北郷左衛門入道	竜伯		(E?)	後3-140	野本内記		都城島津家文書6171.96.15-5-9	家6北郷95。
483	(文禄5)	12	25	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-165	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-23	
484				書状	むもし	竜伯			附2-88				
485		1	19	書状	又八郎	竜伯	横切紙	E	後3-170	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-25	
486		2	29	書状	宗固	竜伯	横切紙	E	附1-997	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-1-31	
487	(慶長2)	3	17	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-210	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-26	
488	(慶長2)	6	2	書状	又八郎	竜伯	折紙	E→F	後3-233	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-27	
489	慶長2	6	9	判物	(息女)	りう伯	堅紙大	E	後3-240	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-12	
490		7	3	書状	抱節	竜伯	折紙	E→F	後3-250	抱節譜	鹿児島県立図書館	伊集院文書6171.97.21-4	
491		7	11	書状	羽兵庫頭	竜伯	折紙	E→F	後3-254	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-28	
492		7	11	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-255	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-29	
493		9	13	書状	又八郎・羽兵庫頭	竜伯	横切紙	E	後3-305	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-32	
494	(慶長2)	12	2	書状	又八郎	竜伯	横切紙	E	後3-341	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-1	
495	慶長2	12	26	願文	(清水千手観音)	竜伯	堅紙大	E	後3-344	三番箱	史料島津	島3-13-3	大古1456。後4-313に慶長11年としてあり。
496		2	22	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-381	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-2	
497		3	7	書状	又八郎	竜伯	横切紙	E	後3-385	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-3	
498		3	20	書状	石治少老	嶋修入龍伯	折紙	E	後2-1483	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-28	
499		3	21	書状	けさ菊うは	りう伯		ナシ	附1-967	袈裟菊丸常久譜	高古集成館		日置島津家文書。家9日置5は慶長3年とする。
500	(慶長3)	3	28	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-394	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-4	
501		4	17	書状	山田越前入道	竜伯		(E)	附1-974	山田弥九郎有盛 (島津義久譜)	島津5-1-6		
502	(慶長3)	5	20	書状	又八郎	竜伯	横切紙	E	後3-411	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-5	
503	慶長3	5	22	連署状		竜伯	堅紙大	E	後3-412			鎌田文書3071.97-12	石田三成連署。影写本による縦29.3。
504	慶長3	5	22	連署状	本田与左衛門尉・新納孫右衛門・川上三河守入道・河上左近将監	竜伯	堅紙大	E	後3-413	御文庫二番箱	史料島津	島4-4-8	石田三成連署。大古1103。
505	慶長3	7	2	起請文案	加賀大納言・江戸内府	龍伯	堅紙大	ナシ	後3-426	御文庫二番箱	史料島津	島3-13-5	大古1459。
506	(慶長3)	7	9	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-429	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-6	
507	慶長3	7	15	起請文案	加賀大納言・江戸内府	龍伯	堅紙大	ナシ	後3-433	嶋津家文書			
508				書状案	(琉球国王)		堅紙大	ナシ	後3-436	二番箱八	史料島津	島17-9-8	
509		8	28	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-464	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-7	
510		9	13	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-470	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-8	
511		9	16	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-476	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-9	
512		9	29	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-483	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-10	
513	慶長3	10	吉	願文	(伊勢・熊野)		堅紙大	E	後3-507	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-6	大古1460。
514	慶長3	10	13	願文	嶋津修理大夫入道	龍伯	堅紙大	E→F	後3-508	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-7	大古1461。
515		10	27	書状写	石治少老	竜伯	折紙	ナシ	後3-538	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-11	
516		11	5	書状	利安	竜伯	横切紙	E→F	後3-555	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-13	
517		11	5	書状	利安	竜伯	横切紙	E→F	家10山田2	山田有盛	高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14、16丁	後3-555と同人。
518		11	6	書状	又八郎・羽兵庫頭	竜伯	折紙	E→F	後3-556		史料島津	島2-26-10	大古1141。
519		11	20	書状	紹巴老	嶋修入龍伯					愛甲文書		熊本県史料3-p482。
520		11	23	連署書	鹿見嶋・富塚・帖佐	竜伯			後3-582				義弘・忠恒連署。
521		11	25	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-592	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-12	
522		12	9	書状	石治少老	嶋修入龍伯	折紙	E→F	後3-618	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-14	
523		12	26	書状	山田越前入道	竜伯	横切紙	(F)	附1-988	山田弥九郎有盛、義久譜	高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14、15丁	家10山田3。破損甚だし。花押は島津義久譜(島35-1-6)による。
524	(慶長4)	1	3	書書	又八郎・兵庫頭	竜伯	堅紙大	E→F	後3-644		史料島津	島2-26-12	大古1143。
525	慶長4	1	3	起請文	又八郎・兵庫頭	竜伯	堅紙大	E→F	後3-645		史料島津	島2-26-11	大古1142。
526		1	3	起請文	又八郎・兵庫頭	竜伯	堅紙大	F	附1-932	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-8	大古1462。
527		2	4	書状	北郷長千代	竜伯		(F)	後3-654	北郷讚岐守忠能譜	都城島津家文書6171.96.15-4-14		家6北郷52。
528		2	7	書状	又八郎	竜伯			後3-657				
529	(慶長4)	2	29	書状	兵庫入道	竜伯	折紙	E→F	後3-665	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-15	
530	(慶長4)	3	25	書状	又八郎・兵庫入道	竜伯	折紙	E	後3-691		史料島津	島19-3-16	
531	(慶長4)	3	25	書状	又八郎・兵庫入道	竜伯	横切紙	E	後3-692	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-17	
532	(慶長4)	3	1	書状	石治少老	嶋修入龍伯	横切紙	E→F	後3-694	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-18	
533	(慶長4)	3	7	書状	石治少老	嶋修入龍伯			後3-703	四本休之進			
534	(慶長4)	3	14	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-706	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-19	
535		4	4	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-718	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-20	
536	(慶長4)	4	19	書状	比志島紀伊守・本田六右衛門尉	竜伯	折紙	E→F			史料比志島	島83-7-1	比志島文書3071.97-4。
537		4	25	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-729	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-21	
538	慶長4	5	17	寄進状	留守次郎三郎	竜伯		(E→F)	後3-742	御守右衛門		留守守文書2071.97-4	
539	慶長4	5	17	寄進状	華林寺	竜伯	堅紙大	E→F	後3-743	前田主計		霧島神宮文書3071.97-13	影写本による縦36.0。
540	慶長4	5	17	寄進状	霧島社領	竜伯	堅紙大	E→F	後3-744	寺院文書		霧島神宮文書3071.97-13	影写本による縦36.5。
541		5	20	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-746	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-22	
542		5	23	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-748	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-23	
543		6	16	書状	又八郎	竜伯	折紙	E	後3-761	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-24	
544		7	10	書状案	羽柴左近大夫				後3-797	案文帳之写			
545		7	10	書状案	黒田甲斐守				後3-798	案文帳写			
546		7	10	書状案	羽柴兵庫入道				後3-799	案文帳之写			
547		7	11	書状案	小西右衛門				後3-800	案文帳写			
548		7	16	書状案	寺沢志摩守・小西撰津守				後3-804	案文帳之写			
549		7		書状案	羽柴兵庫入道				後3-812	案文帳之写			
550		7		書状案	安芸中納言				後3-813	案文帳之写			
551		7	28	書状	入来院又六・拙斎・新田左衛門左衛門尉	竜伯	折紙	E	後3-815	旧記抄	新納文書3071.97-2		入来文書に写あり。慶長4年カ。
552		8	1	書状案	兵庫入道				後3-830	案文帳写			
553		8	2	書状案	神楽院				後3-831	案文帳写			
554		8	2	書状案	長悦				後3-832	案文帳写			
555		8	6	書状案	立花				後3-840	案文帳写			
556		8	8	書状案	伊東				後3-845	案文帳写			
557		8	9	書状案	高橋				後3-846	案文帳之写			
558		8	9	書状案	小西				後3-847	案文帳之写			
559		8	10	書状	武庫入道	竜伯	折紙	ナシ	後3-849	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-26	家3-287。
560		8	10	書状案	小西				後3-850	案文帳之写			
561		8	10	書状案	進藤大藏入道				後3-851	案文帳之写			
562		8	19	書状案	ちくし主水正				後3-857	案文帳之写			
563		8	26	書状案					後3-865	案文帳之写			
564		8	26	書状案	安国寺				後3-866	案文帳之写			
565		9	14	書状	伊那口書頭	嶋修入龍伯	折紙	E	後3-881	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-14	
566		9	30	書状案	寺沢志摩守				後3-903	案文帳			

番号	年	月	日	文書名	宛所	差出書	料紙	花押	鹿限日記	旧記の出典	現所蔵	編纂所請求記号	備考
567		10	1	書状案	高橋右近				後3-908	案文帳之写			
568		10	1	書状案	又八郎				後3-909	案文帳之写			
569		10	3	書状案	秋月殿				後3-913	案文帳之写			
570		10	3	書状案	又八郎				後3-914	案文帳之写			
571		10	4	書状案	又八郎		折紙	E	後3-920	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-27	
572		10	4	書状	安芸中納言	嶋修入〔	横切紙	ナシ	後3-921	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-5	後3-1713にもあり。
573		10	4	書状	安国寺		横切紙	ナシ	後3-922	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-28	
574		10	6	書状	又八郎	龍伯	折紙	ナシ	後3-923	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-29	
575		10	6	書状案	兵庫入道				後3-924	案文帳之写			
576		10	6	書状案	兵庫入道				後3-926	案文帳之写			
577				書状案					後3-927	案文帳之写			
578		10	10	書状	又八郎	龍伯	横切紙	F	後3-931	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-30	
579	慶長4	10	11	慶親祝書	又八郎	龍伯	横切紙	ナシ	後3-933	三番箱	史料高津	島3-13-11	大古1465。
580		10	24	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後3-940	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-31	
581		12	10	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-971	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-32	
582		12	11	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後3-972	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-33	
583		12	26	書状	又八郎	龍伯	折紙	G	後3-992	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-34	
584				書状				G	家11末川15	末川			家11解題に言及あり。自筆か。
585				起請文書案					後3-1000	肝付家臣前田三左衛門			
586		1	6	書状	又八郎	龍伯	折紙	F	後3-1004	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-35	
587		1	15	書状		龍伯	横切紙	ナシ	後3-1011	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-37	
588		1	17	書状	又八郎	龍伯	折紙	F	後3-1014	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-36	
589		2	16	書状案	秋月殿	龍伯			後3-1047	了順			
590	慶長5	2	29	連署起請文	山口勲兵衛尉	龍伯	縦紙大	F	後3-1053	御文庫三番箱	史料高津	島3-13-12	忠恒連署。大古1466。
591		4	22	書状	又八郎	龍伯	折紙	F	後3-1094	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-38	
592	慶長5	5	11	宛書	大乗院	龍伯		(F)	後3-1106	大乗院	(島津義久譜)	島35-1-6	
593	慶長5	5	11	宛書	福昌寺	龍伯			後3-1115	福昌寺			
594	慶長5	6	2	宛書	花林寺	龍伯	縦紙大	E→F	後3-1114	華林寺		島島神宮文書3071.97-13	影写本による縦33.3。
595		6	25	書状	又八郎	龍伯	折紙	F	後3-1116	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-39	
596				書状案			縦紙	ナシ	後3-1131		史料高津	島17-9-13	
597		8	5	書状	吉田美作守	龍伯		(F)	後3-1151	吉田次郎兵衛為清	(島津義久譜)	島35-1-6	
598		8	20	書状		龍伯		(E)	後3-1158	吉田種右衛門清宣	(島津義久譜)	島35-1-6	
599		10	16	連署状	寺沢志摩守	龍伯	横切紙	E→F	後3-1241	旧記抄	史料高津	島3-13-13	忠恒連署。大古1467、四十八番箱は「二日」。
600		10	22	連署状	寺沢志摩守	龍伯	横切紙	ナシ	後3-1250	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-11-15	忠恒連署。忠恒は花押あり。
601		10	22	書状	又八郎	龍伯	横切紙	F	後3-1251	御文庫三番箱	史料高津	島3-13-14	大古1468、花押附れ。
602		11	2	書状案	如水		縦紙	ナシ	後3-1265	二番箱八	史料高津	島17-9-14	後3-1266「雑抄」は義弘の差出で同文。
603		11	2	書状案	伊井待從		縦紙	ナシ	後3-1267	二番箱八	史料高津	島17-9-15	
604				書状案			縦紙	ナシ	後3-1268	二番箱八	史料高津	島17-9-16	
605	慶長5	11	7	判物	(息女)	龍伯	縦紙大	F	後3-1276	三番箱	史料高津	島3-13-15	大古1469。
606		12	24	判物	(息女)	龍伯	縦紙大	F		三番箱	史料高津	島3-13-16	大古1470。
607		12		書状案			縦紙	ナシ	後3-1421	二番箱八	史料高津	島17-9-17	
608		1	17	書状	本田六右衛門	龍伯	折紙	F	後3-1451	本田氏藏書	史料本田家	島80-21-2-4	家10本田4。
609		2	13	書状	遠正宗園	龍伯			附2-70				
610	慶長6	3	吉	領知目録	大明寺	(袖判)		黒印	後3-1484	台明寺文書			大古176。
611	(慶長6)	4	2	書状	惟新	龍伯	折紙	F	後3-1494	雑抄、四十八番箱	史料高津	島19-3-41	
612	(慶長6)	4	6	書状	少将	龍伯	折紙	F	後3-1499	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-40	
613	(慶長6)	7	13	書状	少将	龍伯	折紙	F	後3-1522	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-42	
614	慶長6	8	7	連署状	(諸士)	竜伯	縦紙大	F	後3-1534	旧記抄、三番箱	史料高津	島3-13-17	義弘・忠恒連署。大古1471。家6北郷216に写あり。
615		10	11	書状	惟新	龍伯	折紙	F	後3-1564	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-43	
616	慶長6	11	24	判物	大乗院	龍伯		(E→F)	後3-1576	大乗院	(島津義久譜)	島35-1-6	
617	慶長6	12	22	連署起請文	本多佐渡守	島津修理大夫入道龍伯			後3-1591	雑抄			忠恒連署。台紙付写真「島津龍伯・忠恒起請文」の案文。
618	慶長6	12	22	連署起請文	本多佐渡守	島津修理大夫入道龍伯	縦紙大	F			(山口昇)	台紙付写真-103-3699	忠恒連署。史料編纂所蔵台紙付写真「島津龍伯・忠恒起請文」。那智瀧宝印。血判
619	慶長6	12	22	書状	本多佐渡守・山口勲兵衛	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1593	雑抄	史料高津	島17-9-18	二二三番箱(島17-9-18)に案文アリ
620		12	23	書状	倉光主水佐	嶋津修理大夫入道龍伯	折紙	F	後3-1594	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-44	
621	慶長7	1	4	書状案	中山王	修理大夫義久		ナシ			鹿児島県立歴史資料センター・黎明館所蔵文書61791.97-49-3-31		鹿児島県立歴史資料センター・黎明館所蔵「手鑑」。
622		3	3	書状案	渋谷対馬入		縦紙	ナシ	後3-1612	二二三番箱九	史料高津	島17-10-1	
623		4	10	書状案	山園道阿		縦紙	ナシ	後3-1614	二二三番箱九	史料高津	島17-10-2	
624		5	20	書状	長堯坊	龍伯			後3-1633	雑抄			「御朱印」。
625	慶長7	6	13	起請文	少将	龍伯	縦紙	F	後3-1644	御文庫三番箱	史料高津	島3-13-19	大古1473、花押血判。
626	慶長7	6	13	起請文	兵庫入道	龍伯	縦紙	F			史料高津	島73-11-1	花押血判、那智瀧宝印。
627		6	22	書状	又四郎	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1645	御文庫三番箱	史料高津	島3-13-18	大古1472は慶長7年とする。
628		7	22	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1664	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-3-45	
629	慶長7	7		書状案	山口勲兵衛	龍伯			後3-1665	雑抄御案文			
630		8	17	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1686	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-1	
631		9	1	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1698	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-2	
632	慶長7	9	7	判印状	彦兵衛尉	義久	縦紙大	E			霧島市立因分郷土館		琉球渡海朱印状。〔重水一九九四〕参照。
633		9	11	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1703	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-3	
634		9	27	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1711	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-4	
635		10	7	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1716		史料高津	島19-4-6	
636		12	12	書状	少将	龍伯	折紙	E→F	後3-1745	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-7	
637		12	16	書状	少将	龍伯	折紙	E	後3-1747	御文庫四十八番箱	史料高津	島19-4-8	
638	慶長8	1		書状案	安南国大都統瑞国公	修理大夫義久	縦紙大	ナシ	後3-1780	三番箱	史料高津	島3-13-20	大古1474、漢文、読み仮名。
639		2	18	書状	大和宗徳	龍伯		E					〔平成14年明治古書交易会七夕古書大入札会目録〕p253、縦紙1紙、端裏ウハ書
640	(慶長8)	2	19	書状	少将	龍伯	縦紙大	F	附2-50		史料高津	島2-26-15	大古1146。家9永吉32にあり。
641		2	19	書状案	隆下	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1793	二二三番箱九	史料高津	島17-10-4	
642	(慶長8)	3		書状案	山口勲兵衛尉	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1797	二二三番箱九	史料高津	島17-10-6	
643	(慶長8)	7		書状案	琉球国王	龍伯	縦紙大	ナシ	後3-1794	二二三番箱九	史料高津	島17-10-5	慶長8年春カ。
644		7	26	書状	維新老	龍伯	折紙	E	後3-1845		史料高津	島19-4-9	
645		9		書状案	琉球国王	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1862	二二三番箱九	史料高津	島17-10-8	年ナシ。
646		9	27	書状案	山口勲兵衛尉	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1867	二二三番箱九	史料高津	島17-10-9	
647		10	18	書状案	幽斎	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1872	二二三番箱九	史料高津	島17-10-10	
648		10	18	書状	喜入拱津守	龍伯		(F)	後3-1874		(喜入季久譜)	島42-2-7	
649		12	29	書状	維新老	龍伯	折紙	E	家7曾木80	曾木		島島文書61791.97-34	
650	慶長9	2		書状案	中山王	修理大夫義久	縦紙大	ナシ	後3-1914	案文在官庫	史料高津	島2-25-15	大古1119。

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿殿旧記	旧記の典拠	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
651		2	26	書状	本多上野守	龍伯	堅紙	E→F	後4-324	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-19	上包裹に「嶋津修理入道」、島51-2-16にはナシ。
652		3	23	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後3-1917	文庫、四十八番箱 後4-25	史料島津	島19-4-10	
653		4	5	書状	少将	龍伯	折紙	F?	附1-935	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-21	慶長9(家康3/29伏見着)と比定、大古1474。
654		8	19	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後3-1952	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-11	
655	慶長9	8	19	連署状	(諸士)	龍伯	堅紙	F	後3-1955	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-22	忠恒連署。大古1476。
656	慶長9	8	19	連署状	(諸士)	龍伯	堅紙	F	後3-1955	御文庫三番箱	史料島津	島3-15-9	忠恒連署。後3-1955の案。大古1524。
657		12	19	書状	榊山権左衛門尉	龍伯	横切紙	E→F	後3-1977	榊山氏	史料榊山	島84-14-1	家5-278。
658		12	19	書状	榊山権左衛門尉	龍伯	横切紙	E→F	後3-1978	榊山氏	史料榊山	島84-14-2	家5-279。
659		1	10	書状	榊山権左衛門尉	龍伯	折紙	F	後4-5	榊山氏	史料榊山	島84-14-3	家5-118。
660		4		書状	山口駿河守	龍伯	堅紙	ナシ	後4-38	御文庫四十八番箱、又吉常久譜(後4-467)	史料島津	島17-10-12	
661		6	19	書状		龍伯	横切紙	E→F	後4-66	御文庫四十八番箱、又吉常久譜(後4-467)	史料島津	島19-4-13	
662		7		書状案	山口駿州		堅紙	ナシ	後4-71	二二番箱九	史料島津	島17-10-13	
663	(慶長10)	8		書状案	進藤大蔵入道	龍伯	堅紙	ナシ	後4-93	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-23	近衛信尹の任岡白、慶長10/7/23。大古1477。
664		8		書状案	卯庵老		堅紙	ナシ	後4-99	御文庫三番箱	史料島津	島17-10-14	
665		9		書状	倉光主水佐		堅紙	ナシ	後4-102	二二番箱九	史料島津	島17-10-15	近衛信尹の任岡白、慶長10/7/23。
666	慶長10	12	14	老中安堵状	金剛寺	(袖判)	朱印		後4-136	国分金剛寺			
667	慶長10	12	14	老中安堵状	龍昌寺	(袖判)	朱印		後4-137	龍昌寺			
668		12	16	書状案	寺志老		堅紙	ナシ	後4-138	二二番箱九	史料島津	島17-10-16	
669		1	27	書状案	幽斎老	嶋津修理入道龍伯	折紙	F	後4-163	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-15	
670	慶長11	4		吉判物	妙谷守	龍伯	(F)		後4-180	妙谷守	(島津義久譜)	島35-1-6	
671		4	16	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E→F	後4-191	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-17	
672		4	16	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E→F	後4-193	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-16	
673		4	16	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E→F	後4-194	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-18	
674		5	21	書状	羅新老	修入龍伯	折紙	F	後4-63	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-12	
675		5	21	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後4-210	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-19	
676	慶長11	7	2	領地目録	澤永温老	(袖判)	(朱印)		後4-241	国分宮内沢氏文書			袖に「御朱印」。同日付理安・抱節連署状(後4-240)あり。
677		7	21	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後4-250	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-22	
678		7	4	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後4-371	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-23	
679		10	23	書状	入来院石見守	龍伯	折紙	黒印	後4-402	入来院石見重頼	史料入来院	入来院家文書0671-18-3	封紙は竜伯(本紙と紙質異なる)、丸黒印、本紙地部2cmほど裁断か。
680	慶長12	10	24	書下	最上善左衛門尉	龍伯	(F)		後4-403	最上氏	(島津義久譜)	島35-1-6	
681		3	26	書状	寺沢志摩守	嶋津修理入道龍伯	横切紙	F	附1-994	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-18	慶長13年か。
682		10	26	書状案	友枕斎				附1-986				照高院道隆死去、慶長13/6/28。「南浦文集」「異国日記」4。
683	慶長13			書状案	大明商客	藤氏龍伯法印			後4-477				
684	慶長14	2		書状案	中山王	龍伯法印		ナシ	後4-532				
685	慶長14	2	21	書状案	中山王			ナシ	後4-538		二三番箱		
686	慶長14	2	26	連署条書	(琉球渡海軍衆)	龍伯	堅紙	F	後4-544	榊山助太郎	史料榊山	島84-14-8	家久・惟新連署。家5-285。
687	(慶長14)	5	3	書状	榊山権左衛門尉	龍伯	折紙	黒印	後4-569	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-24	
688	(慶長14)	5	3	書状写	平田太郎左衛門・伊集院半右衛門・佐多越後守	龍伯			後4-570	官庫			
689	(慶長14)	5	21	書状	山口駿河守	嶋津修理入道龍伯	(F)		後4-579	官庫	(島津義久譜)	島35-1-6	義久譜では「正文に瀧池八左衛門」。
690	(慶長14)	5	26	書状案	山口駿河守・本田上野守	龍伯	堅紙	ナシ	後4-580	二二番箱十	史料島津	島17-11-5	「惟新」の書き込みアリ。
691	慶長14	7	14	書下	山田民部少輔	龍伯	堅紙	F	家10山田4	史料本田家		島80-23-4	
692	慶長14	12	7	書下	新納武蔵入道	龍伯	堅紙	F	後4-641				新納文書3071.97-2
693	(慶長15)	1	16	書状案	信門跡		堅紙	ナシ	後4-664	二二番箱十	史料島津	島17-11-6	
694	(慶長15)	1	16	書状案	倉光主水佐		堅紙	ナシ	後4-665	二二番箱十	史料島津	島17-11-7	
695	(慶長15)	1	16	書状案	祐兼法印		堅紙	ナシ	後4-666	二二番箱十	史料島津	島17-11-8	
696	(慶長15)	8	8	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後4-719	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-25	
697	慶長15	12	28	判物	た、仍母儀	りう伯	F		家11末川11				「都城文化財調査報告書21集」。自筆か。
698	(年未詳)	8	29	書状	兵庫頭	龍伯	横切紙	E	附1-931	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-2	大古1456。
699	(年未詳)	1	6	書状	兵庫頭	修理大夫入道龍伯	横切紙	F	附1-933	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-9	大古1463。
700	(年未詳)	3	3	書状	兵庫頭	龍伯			附2-29				
701	(年未詳)	6	1	書状	兵庫頭	龍伯	(E?)		伊3譜3-27	諸家系図三	史料島津本	島津家本さ1-12-33-77	「藤藩諸家系図」。
702	(年未詳)	8	12	書状	兵庫入道	龍伯	折紙	F	附2-93	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-8	
703	(年未詳)	10	19	書状	惟新	龍伯	折紙	E	後4-127	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-14	
704	(年未詳)	7	29	書状案	惟新	龍伯			後4-381				
705	(年未詳)	6	20	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後2-1328	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-1-22	「申刻」。
706	(年未詳)	7	14	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後2-1567	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-1	
707	(年未詳)	3	27	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	後3-42	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-14	
708	(年未詳)	4	9	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後3-46	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-15	
709	(年未詳)	8	1	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後3-279	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-30	
710	(年未詳)	9	15	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後3-307	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-2-33	
711	(年未詳)	12	2	書状	又八郎	龍伯			後3-965	猪俣氏			
712	(年未詳)	8	10	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	後3-1678	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-46	
713	(年未詳)	3	26	書状	又八郎	龍伯			後4-330	官庫			新納文書に写し「本田助之丞蔵」。
714	(年未詳)	7	20	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	附1-940	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-37	
715	(年未詳)	3	25	書状	又八郎	龍伯	折紙	E→F	附1-941	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-36	
716	(年未詳)	1	23	書状	又八郎	龍伯	堅紙	E	附1-942	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-34	謹上書。
717	(年未詳)	1	11	書状	又八郎	龍伯	堅紙	E	附1-943	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-35	
718	(年未詳)	2	22	書状	又八郎	龍伯	折紙	ナシ	附1-947	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-33	
719	(年未詳)	5	24	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	附1-948	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-28	
720	(年未詳)	1	15	書状	又八郎	龍伯	折紙	E	附1-950	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-27	
721	(年未詳)	12	2	書状	又八郎	龍伯	堅紙	E	附2-611	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-10	
722	(年未詳)	7	24	書状	又八郎	龍伯	折紙	E					「思文閣古書資料目録」214(2009年)、p178~。
723	(年未詳)	8	7	書状	少将	龍伯	折紙	ナシ	附1-944	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-32	
724	(年未詳)	9	16	書状	少将	龍伯	折紙	E	附1-945	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-30	
725	(年未詳)	6	11	書状案	少将	龍伯	折紙	ナシ	附1-946	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-31	
726	(年未詳)	1	9	書状	少将	龍伯	折紙	E	附1-949	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-29	
727	(年未詳)	5	28	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後4-212	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-20	
728	(年未詳)	6	11	書状	陸奥守	龍伯	折紙	E	後4-219	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-4-21	
729	(年未詳)	1	11	書状	北郷左衛門入道	修理大夫入道龍伯	(E)		家6北郷92	北郷	都城島津家文書617196-15-5-43		北郷時久、文禄5/2/3没。
730	(年未詳)	1	11	書状	北郷長千代	修理大夫入道龍伯	(E)		家6北郷97	北郷	都城島津家文書617196-15-5-33		
731	(年未詳)	1	11	書状	北郷長千代	修理大夫入道龍伯	(E?)		家6北郷98	北郷	都城島津家文書617196-15-5-35		

番号	年	月	日	文書名	宛 所	差出書	料 紙	花 押	鹿泉旧記	旧記の由典	現所蔵	編纂所請求記号	備 考
732	(年未詳)	1	12	書状	北郷長千代	修理大夫入道龍伯		(E)	家6北郷99	北郷		都城島津家文書6171.96-15-5-57	
733	(年未詳)	12	28	書状	北郷長千代	龍伯		(E)	家6北郷102	北郷		都城島津家文書6171.96-15-5-63	
734	(年未詳)	4	28	書状	北郷長千代	龍伯		(F)	後3-730	北郷家		都城島津家文書6171.9615-4-116	家6北郷53では慶長3年とする。
735	(年未詳)	1	11	書状	北郷次郎	修理入道龍伯		(E)	家6北郷111	北郷		都城島津家文書6171.96-15-5-82	
736	(年未詳)	7	17	書状	本田六右衛門尉	龍伯	折紙	E	附2-55	本田	史料本田家	島80-21-2-6	家10本田新6.
737	(年未詳)	8	19	書状	本六右	龍伯	折紙	E	附2-56	本田	史料本田家	島80-21-2-8	家10本田新8. ウハ書は「義久」。
738	(年未詳)	10	10	書状	本田六右衛門尉	龍伯	折紙	F	附2-57	本田	史料本田家	島80-21-2-10	家10本田新10.
739	(年未詳)	10		書状	本田六右衛門尉・伊集院隆前入道・桂太郎兵衛	龍伯	折紙	E→F	後2-978	本田	史料本田家	島80-21-2-9	家11桂-11に写あり。
740	(年未詳)	12	10	書状	本田六右衛門尉	龍伯	折紙	E	附2-58	本田	史料本田家	島80-21-2-13	家10本田新13.
741	(年未詳)	8	10	書状案		龍伯	縦紙	ナシ	後3-1679	二二番箱九	史料島津	島17-10-3	
742	(年未詳)	3		書状案	進藤大蔵入道	龍伯	縦紙	ナシ	後3-1798	二二番箱九	史料島津	島17-10-7	
743	(年未詳)	3		書状案	倉光主水佐	龍伯	縦紙	ナシ	後4-33	二二番箱九	史料島津	島17-10-11	
744	(年未詳)	7	2	書状案	倉光主水佐	龍伯	折紙	ナシ	後3-779	御文庫四十八番箱	史料島津	島19-3-25	
745	(年未詳)	7	2	書状案	倉光主水佐	龍伯	縦紙	ナシ	後4-370	二二番箱十	史料島津	島17-11-2	「七」月。
746	(年未詳)	8	8	書状	倉光主水佐	龍伯	横切紙	F			近衛家文書3071.68-2-2	影写本による縦17.5。	
747	(年未詳)	8	23	書状案	伊勢因幡入道	龍伯	縦紙	ナシ	後3-301	二二番箱八	史料島津	島17-9-7	
748	(年未詳)	1	13	書状案	友祐斎	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1053	二二番箱	史料島津	島17-11-9	
749	(年未詳)	2	13	書状案	祐兼法印	龍伯	縦紙	ナシ	後4-166	二二番箱十	史料島津	島17-11-1	「正月」を「二月」に。
750	(年未詳)	10	16	書状案	祐兼法印	龍伯	縦紙	ナシ	後4-267	二二番箱九	史料島津	島17-10-18	
751	(年未詳)	2	3	書状	利安	龍伯	横切紙	E	附1-970	山田弥九郎有盛	高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14、147	家10山田1. モト折紙カ。島津義久譜(島津35-1-6)参照
752	(年未詳)	3	26	書状	利安	龍伯		(E)	附1-971	山田弥九郎有盛	高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14、147	家10山田5. 破損甚だし。花押は島津義久譜(島津35-1-6)による
753	(年未詳)	7	25	書状	瑞光寺	龍伯			附2-65	高山瑞光寺		島津35-1-6	附2-65と関連するカ。
754	(年未詳)	9	25	書状	瑞光寺	龍伯		(E)	附1-977	高山瑞光寺	(島津義久譜)	島津35-1-6	
755	(年未詳)	9	22	書状	吉田美作守	龍伯		(F)	後4-396	吉田次郎兵衛為清	(島津義久譜)	島津35-1-6	
756	(年未詳)	5	26	書状	吉田美作守	龍伯		(F)	後4-471	吉田次郎兵衛為清	(島津義久譜)	島津35-1-6	
757	(年未詳)	9	16	書状	成正院	龍伯			附2-64				
758	(年未詳)	6	23	書状	成正院	龍伯			附2-71				
759	(年未詳)	6	29	書状案	金蔵坊	龍伯	縦紙	ナシ	後3-771	二二番箱八	史料島津	島17-9-11	
760	(年未詳)	8	5	書状	金蔵坊	龍伯	縦紙	ナシ	附2-68				写カ時任氏蔵。
761	(年未詳)	4	12	書状案	相良左兵衛佐	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1057	二二番箱	史料島津	島17-11-13	
762	(年未詳)	9	12	書状案	相良左兵衛尉	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1064	二二番箱	史料島津	島17-11-20	
763	(年未詳)	5	11	書状案	秋月三郎	龍伯	横切紙	ナシ	附1-927	御文庫三番箱	史料島津	島3-13-27	大古1481.
764	(年未詳)	7	2	書状案	秋月長門守	龍伯	縦紙	ナシ	附1-982				
765	(年未詳)	9	2	書状案	秋月	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1063	二二番箱	史料島津	島17-11-19	
766	(年未詳)	11	26	書状	和光院	龍伯		(E)	附1-987		(島津義久譜)	島津35-1-6	
767	(年未詳)			書状案	聖護院殿	龍伯	縦紙	ナシ	附1-991				慶忠坊宛所。
768	(年未詳)	6	24	書状案	道正休屠	龍伯	縦紙	ナシ	後4-367	二二番箱十	史料島津	島17-11-3	
769	(年未詳)	4		書状	神龍院	龍伯	縦紙	ナシ	後2-745	二二番箱六	史料島津	島17-7-12	徳国大明神、先年在京から慶長5年以後カ。
770	(年未詳)	1	13	書状案	岳西院	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1054	二二番箱	史料島津	島17-11-10	
771	(年未詳)	1	13	書状案	中性院	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1055	二二番箱	史料島津	島17-11-11	
772	(年未詳)	3	9	書状案	清水寺成就院	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1066	二二番箱	史料島津	島17-11-12	
773	(年未詳)	2		書状案	信門跡	龍伯	縦紙	ナシ	後4-165	二二番箱九	史料島津	島17-10-17	
774	(年未詳)	5	18	書状案	堀田新次郎	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1058	二二番箱	史料島津	島17-11-14	老中書状カ。
775	(年未詳)	5	24	書状案	三輪山先達	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1059	二二番箱	史料島津	島17-11-15	
776	(年未詳)	6	28	書状案	井関	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1060	二二番箱	史料島津	島17-11-16	大覚寺殿へ返書案。
777	(年未詳)	8		書状案	大村	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1062	二二番箱	史料島津	島17-11-18	
778	(年未詳)	3	18	書状	本田上野守	龍伯	縦紙	E→F	附1-939	御文庫四十九番箱	史料島津	島19-4-39	
779	(年未詳)	2	18	書状	古漢和商	龍伯	縦紙	ナシ	後3-27	二二番箱八	史料島津	島17-9-6	
780	(年未詳)	5	24	書状	伊東徳前	龍伯	横切紙	E→F	後3-749	御文庫四十九番箱	史料島津	島51-2-13	前欠。
781	(年未詳)	9	29	書下	所々城守中	龍伯			附2-51	伊地知郷兵衛			
782	(年未詳)	1	9	書状	鹿見島・帖佐・富隈留守居	龍伯	横切紙	E	附2-62		高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14、147	家10山田尚4. モト折紙カ。
783	(年未詳)	9	9	書状	安三州	龍伯			附2-67	河上二郎左衛門			
784	(年未詳)	5	15	書状	大乗院	龍伯			附2-72				
785	(年未詳)	6	15	書状		龍伯	折紙	E					本法寺文書6171.62-61.2.157
786	(年未詳)	8	10	書状	彦山樂徒中	龍伯	縦紙	E					竹内松次郎氏所蔵文書3071.36-140-6
787	(年未詳)	6	7	書状	那智山実報院	龍伯					熊野那智大社		「史料纂集熊野那智大社文書」1031号(米良文書)。
788	(年未詳)	10	12	書状	山田越前入道ほか2名	龍伯	切紙	E	家10山田尚6		高古集成館	高古集成館所蔵文書6171.97-14、147	
789	(年未詳)	3	17	書状	二位	龍伯	縦紙	F					神田孝平氏所蔵文書3071.36-21-4
790	(年未詳)	4	3	連署状	大長老侍衆律師	嶋津修理大夫入道龍伯	折紙	F					飯坂潤治氏所蔵文書3071.41-6-1.157
791	(年未詳)	11	29	書状	天満宮大鳥居	龍伯	縦紙	F					忠恒連署。「源喜堂書古書目録平成19年16号」2頁(折紙上半分)。
792	(年未詳)	6	6	書状	種子島三郎二郎	龍伯		(F)	家4-69		(種子島家譜)	大鳥居文書3071.91-2-4	影写本による縦21.0。下部欠損。
793	(年未詳)	6	20	書状	能満	嶋津修理入道龍伯	折紙	朱印			早稲田大学	早稲田大学蔵研究室所蔵文書6171.36-5	所勞ゆえ花押捺せず。朱印「藤原龍伯」。
794	(年未詳)	10	9	書状		龍伯	縦紙	E			名古屋博物館	浅井文書3071.55-9	後欠カ、影写本による縦29.5。
795	(年未詳)			書状案	大明船主・諸商客	龍伯	縦紙	ナシ	附1-1066	二二番箱	史料島津	島17-11-23	
796	(年未詳)			書状案		龍伯	横切紙	ナシ	附1-1068	二二番箱	史料島津	島17-11-25	
797	(年未詳)			書状案		龍伯	折紙	ナシ			史料島津	島17-7-21	二十二番箱。
798	(年未詳)			書状案		龍伯	縦紙	ナシ			史料島津	島17-11-21	
799	(年未詳)	3	13	書状案	片桐東市正				附1-968				義久カ?
800	(年未詳)	3	13	書状案	本佐州老				附1-969				義久カ?

【凡例 (本文も合わせて参照のこと)】

- ・「花押」欄には、写真などにより確認できた花押型を、本文中の分類に従って記し、案文などで無花押のものは「ナシ」と記した。ただし、「新編島津氏世系正統系図」など近世の写本類でのみ確認したものは(A)のように括弧付で記した。
- ・「鹿泉旧記」欄には、「鹿見島泉史料」として刊行されたものの文書番号を記した。その際、「鹿見島泉史料旧記雑録後編-1」所収の七十九号文書ならば「後1-79」のように略記している。略称の「附」は「旧記雑録附録」を、「家」は「旧記雑録家わけ」を、「伊」は「伊地知李安著作史料集」を指す。
- ・「現所蔵」欄には、史料所蔵者を記したが、東京大学史料編纂所の所蔵史料は略記し、島津家文書ならば「史料島津」のように記した。
- ・「編纂所請求記号」欄には、東京大学史料編纂所における請求記号を記した。その際、島津家文書は「島84-1-1」のように記し、それ以外の原本・写真帳・影写本などは名称と請求記号を示している。
- ・「備考」欄には、当該文書の所見や「鹿見島泉史料」以外の採録刊本などを記した。刊本のうち「大日本古文書島津家文書」は「大古」、[大日本古文書相良家文書]は「相良」と略記し、それぞれ文書番号を示した。
- ・本目録の作成にあたっては、東京大学史料編纂所の各種データベースを活用した。